

おわりに

旧クリーンセンター稼働から 22 年が経過した平成 18（2006）年から、新しいクリーンセンターの検討が始まった。「(仮称) 新武蔵のクリーンセンター施設基本構想」（平成 20（2008）年 6 月）において、課題の整理とその後の議論を市民参加で行うことが位置付けられ、平成 20（2008）年 8 月に「(仮称) 新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会」が発足したのを皮切りに、市民参加の議論が本格的にスタートした。施設・周辺整備協議会は、新クリーンセンターの建設にあたり、新クリーンセンターの備えるべき機能、周辺地域のまちづくり等について議論する場として設置された。第一期が平成 22（2010）年 3 月に設置され、今期の第四期で閉会を迎えた。委員は、旧クリーンセンターの建設反対運動に参加していた者や旧クリーンセンター完成後にこの周辺に入居した者など様々であるが、地域でのクリーンセンターの存在の負担感は共通であった。中には、旧クリーンセンター建設反対を未だ引きずっている部分もあったが、まちづくりの視点から議論したことで、協議会の議論は子どもたちの未来のためのまちづくり、環境問題への対応という大きな議論へと展開していった。再びこの地にクリーンセンターを建設するからには、まちづくりの視点が必要不可欠であった。

旧クリーンセンター建設時には、大気汚染、騒音・振動、悪臭などの公害が大きな環境問題であり、これらにどう対応するかが設計の根幹にあった。旧クリーンセンター稼働から 30 年を経て、施設の安定性が高まるとともに、市とのパートナーシップを築いてきた。新クリーンセンターでは、将来に向けて、地球温暖化を大きな環境問題と捉え、「低炭素社会のモデルの実現」を 1 つの柱として検討を進めてきた。さらには、これらに対応するためには、市民の気づき、理解が必要であることから、市民に開かれた施設づくりがコンセプトとなった。旧クリーンセンターの一部を残し、環境啓発施設「エコプラザ（仮称）」を整備することも決まり、SDG s の達成に貢献する施設を目指すこととなった。昭和 13（1938）年に中島飛行機武蔵野製作所ができ、戦時中は空襲を受け、戦後はグリーンパークスタジアムがオープンした後、米軍宿舎が整備された。その時に整備された福利厚生施設としてのスポーツ施設の機能が今もこの地に残されている。その中にクリーンセンターが建設され、ごみ問題から、まちづくりへ、そして環境について発信する場所へと、この地の歴史は

クリーンセンターとともにさらに移り変わろうとしている。

クリーンセンター建設は、武蔵野市の市民参加の一つの歴史とも言える。自区内処理を余儀なくされ、武蔵野市内のどこにごみ処理施設を建設するのか、全市民的な議論が行われた。市民参加で建設地を決めることは、全国的に見ても事例がない。この過程において、市民はごみと向き合うことになった。さらには、建設地の周辺住民はクリーンセンターとも向き合った。旧クリーンセンターは、市民にとって必要な施設として、時間をかけて、徐々にこの地に馴染んでいった。クリーンセンター運営協議会は、30年間クリーンセンターと向き合い、新しいコミュニティを生み出した。これらのコミュニティを基礎とし、新しい住民も取り込みながら、クリーンセンターがあるこのまちの地域力をさらに高めていきたい。

新クリーンセンターが寿命を迎えるとき、今期の協議会で議論した「30年後の武蔵野市の姿」がどうなっているのか。次世代の武蔵野市民がごみ処理とどう向き合っていくのか。新クリーンセンター建設事業の完了に合わせ、協議会は閉会となるが、次の30年に向けた市民の取組みは今から再スタートを迎える。ごみ減量、低炭素社会の実現に向けて、子どもたちの未来のために何ができるか。エコプラザ（仮称）が大切な役割を担うことになる。30年後、次世代の武蔵野市民が、あらためてクリーンセンターやごみ処理と向き合うとき、この協議会での議論や、今後30年の市民の取組みがどんな果実をもたらすか、楽しみである。



協議会での検討の様子



タウンウォッチングの様子

資料編

資料編 目次

1. 第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会 要綱・委員構成・討議日程	78
2. エコプラザ（仮称）検討市民会議 要綱・委員構成・討議日程	84
3. 周辺団体ヒアリング 議事要旨・周辺団体からの提出資料	88
I 武蔵野緑町パークタウン自治会	88
II 吉祥寺北町五丁目町会	98
III 緑町三丁目町会	103
IV 緑町コミュニティ協議会	111
V けやきコミュニティ協議会	116
VI 都営武蔵野緑町二丁目第2アパート自治会	126
VII クリーンむさしのを推進する会	132

1. 第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会

要綱・委員構成・討議日程

要綱

第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会設置要綱

（設置）

第1条 新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設基本計画に基づく新武蔵野クリーンセンター（仮称）

（以下「新施設」という。）の建替えにあたり、新施設が備えるべき機能、周辺地域のまちづくり等について必要な事項を協議するとともに、周辺地域の住民の意見を反映するため、第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（所管事項）

第2条 協議会は、次に掲げる事項について協議し、その結果を市長に報告する。

- (1) 新施設が備えるべき機能に関する事項
- (2) 新施設の周辺地域のまちづくりに関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、新施設について市長が必要と認める事項

（組織）

第3条 協議会は、別表に掲げる委員で組織し、市長が委嘱する。

（会長及び副会長）

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、それぞれ市長が指名する。

- 2 会長は、会務を総括し、協議会を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（任期）

第5条 委員の任期は、委嘱の日から平成31年3月31日までとする。

（会議）

第6条 協議会の会議は、必要に応じて会長が招集する。

2 協議会が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(報酬)

第7条 委員の報酬等については、武蔵野市非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例（昭和36年2月武蔵野市条例第7号）第5条の規定に基づき、市長が別に定める。

(事務局)

第8条 協議会の事務局は、環境部クリーンセンターに置く。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会について必要な事項は、市長が別に定める。

付 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成28年6月29日から施行する。

(第三期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会設置要綱の廃止)

2 第三期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会設置要綱（平成25年8月1日施行）は、廃止する。

付 則

この要綱は、平成30年6月21日から施行する。

別表（第3条関係）

学識経験者 2人以内

吉祥寺北町五丁目町会を代表する者 4人以内

武蔵野緑町パークタウン自治会を代表する者 3人以内

武蔵野緑町二丁目第2アパート自治会を代表する者 1人

緑町三丁目町会を代表する者 4人以内

けやきコミュニティ協議会を代表する者 2人以内

緑町コミュニティ協議会を代表する者 2人以内

緑懇話会を代表する者 2人以内

クリーンむさしのを推進する会を代表する者 1人

武蔵野市コミュニティ研究連絡会を代表する者 1人

武蔵野市商店会連合会を代表する者 1人

委員構成

学識経験者 (2人)	東京学芸大学名誉教授、 武蔵野市第1回ごみ市民会議委員長	小澤紀美子 (会長)
	武蔵野大学工学部教授、武蔵野市第四期長期計画 調整計画市民会議アドバイザー	水谷 俊博 (副会長)
吉祥寺北町五丁目町会 (4人)	高橋 健一	高橋 豊
	早川 峻	村井 寿夫
緑町三丁目町会 (4人)	塩澤 誠一郎	藻谷 征子
	島 英二	(欠員)
緑町二丁目三番地域住民協議会 (4人)	木村 文	興梠 信子
	千綿 澄子	(欠員)
けやきコミュニティ協議会 (2人)	島森 和子	高石 優
緑町コミュニティ協議会 (2人)	越智 征夫(兼務)	山崎 君枝
緑懇話会 (2人)	平田 昭虎	岡田 敬一
クリーンむさしのを推進する会 (1人)		新垣 俊彦
武蔵野市商店会連合会 (1人)		花俣 延博
武蔵野市コミュニティ研究連絡会 (1人)		越智 征夫(兼務)

討議日程

日付	回	内容
平成28年6月29日	第1回協議会	・協議会の進め方 ・建設事業の報告
平成28年7月13日	第1回作業部会	・エコプラザ(仮称)の検討について
平成28年8月4日	第2回作業部会	・東側外構計画について ・エリア整備・周辺整備について
平成28年8月23日	第3回作業部会	・新クリーンセンター市民サービス内容について ・エコプラザ(仮称)今後の進め方について
平成28年8月31日	第1回外構意見交換会	・東側外構計画について
平成28年9月7日	第4回作業部会	・協議会の今後の進め方について
平成28年9月28日	第2回協議会	・これまでの経過 ・今後の進め方について(周辺整備・エリア整備・エコプラザ(仮称))
平成28年10月12日	第2回外構意見交換会	・東側外構計画について
平成28年10月20日	第5回作業部会	・エコプラザ(仮称)について
平成28年11月2日	第6回作業部会	・エコプラザ(仮称)について
平成28年11月17日	第7回作業部会	・エコプラザ(仮称)について
平成28年11月30日	第3回協議会	・エコプラザ(仮称)について
平成28年12月12日	第8回作業部会	・エコプラザ(仮称)中間まとめについて
平成28年12月20日	第4回協議会	・エコプラザ(仮称)中間まとめについて
平成29年2月3日	第5回協議会	・エコプラザ(仮称)中間まとめについて ・エコプラザ(仮称)検討市民会議について
平成29年2月22日	第9回作業部会	・市役所北エリアについて
平成29年3月30日	第10回作業部会	・市役所北エリアについて

平成29年5月14日	第11回作業部会	・市役所北エリア タウンウォッチング
平成29年5月18日	第12回作業部会	・市役所北エリアについて
平成29年6月22日	第13回作業部会	・市役所北エリアについて
平成29年7月12日	第6回協議会	・市役所北エリアまとめ ・クリーンセンターの防災対策について
平成29年9月20日	第14回作業部会	・クリーンセンター外構ゾーニング案 ・市役所北エリア 現状と課題 ・クリーンセンター防災対策
平成29年10月30日	第15回作業部会	・市役所北エリア中間まとめ(案) ・周辺まちづくり計画等について
平成29年11月28日	第16回作業部会	・市役所北エリア ・周辺まちづくりについて
平成29年12月19日	第7回協議会	・市役所北エリア中間まとめ
平成30年2月14日	第17回作業部会	・周辺まちづくりの検討
平成30年3月26日	第18回作業部会	・周辺まちづくりについて
平成30年5月29日	第19回作業部会	・周辺まちづくり中間まとめ ・エコプラザ(仮称)の進捗状況について
平成30年7月27日	第20回作業部会	・エコプラザ(仮称)に関する意見交換
平成30年8月～平成31年1月	ヒアリング	周辺団体ヒアリング
平成30年9月13日	第21回作業部会	・北エリア外構設計意見交換 ・エコプラザ(仮称)まとめについて
平成30年12月19日	第8回協議会	・エコプラザ(仮称)パブリックコメントについて ・周辺団体ヒアリング結果について ・周辺まちづくりについて
平成31年2月13日	第3回外構意見交換会	・西側植栽計画について ・北エリア整備について
平成31年2月25日	第22回作業部会	・エコプラザ(仮称)管理運営方針について ・西側外構計画案について ・報告書案について
平成31年3月11日	第9回協議会	・報告書案について

2. エコプラザ（仮称）検討市民会議

要綱・委員構成・討議日程

要綱

8 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議設置要綱

（設置）

第1条 武蔵野市長期計画条例（平成23年12月武蔵野市条例第28号）第2条第1項の規定により策定する武蔵野市長期計画及び武蔵野市環境基本条例（平成11年3月武蔵野市条例第9号）第5条第1項の規定により策定する武蔵野市環境基本計画に基づき設置する環境啓発の拠点となる施設（以下「武蔵野市エコプラザ（仮称）」という。）の具体的な在り方について検討を行うため、武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（以下「市民会議」という。）を設置する。

（所管事項）

第2条 市民会議は、次に掲げる事項について協議及び検討を行い、その結果を市長に報告する。

- (1) 武蔵野市エコプラザ（仮称）の在り方に関する事項
- (2) 前号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事項

（構成）

第3条 市民会議は、次に掲げる委員15人以内で組織し、市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 教育関係者
- (3) 事業者を代表する者
- (4) 市民団体等に属する者
- (5) 公募による者
- (6) 行政関係者

（委員長及び副委員長）

第4条 市民会議に委員長及び副委員長各1人を置く。

- 2 委員長は委員の互選により選出し、副委員長は委員の中から委員長が指名する。
- 3 委員長は、会務を総括し、市民会議を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（委員の任期）

第5条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から平成31年3月31日までとする。

（会議）

第6条 市民会議の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

- 2 市民会議の会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。
- 3 市民会議が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は資料の提出を求めることができる。

（報酬）

第7条 委員の報酬は、武蔵野市非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例（昭和36年2月武蔵野市条例第7号）第5条第1項の規定により、市長が別に定める。

（庶務）

第8条 市民会議の庶務は、環境部環境政策課が行う。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、市民会議について必要な事項は、市長が別に定める。

付 則

- 1 この要綱は、平成28年12月21日から施行する。
- 2 この要綱は、平成31年3月31日限り、その効力を失う。

委員構成

	氏名	所属・役職等	備考
学識	こざわ きみこ 小澤 紀美子	東京学芸大学名誉教授、第四期新武蔵野クリーンセンター(仮称)施設・周辺整備協議会 会長	建築・まちづくり学、環境教育学
	すずき まさかず 鈴木 雅和	筑波大学芸術系名誉教授、第10期環境市民会議副委員長	環境農学、環境デザイン学
教育	おおさわ たけひろ 大沢 武弘	武蔵野市立小中学校校長会	本宿小学校校長
事業者	ながしま つよし 長島 剛	多摩信用金庫 価値創造事業部長	平成30年2月20日まで
	きくま ゆういち 佐久間 雄一	多摩信用金庫 価値創造事業本部 地域連携支援部まちづくりグループ 主任調査役	平成30年2月21日から
	しんだて としや 新立 利也	(株)イトーヨーカ堂 営業本部総括マネジャー	平成30年10月28日まで 包括連携協定
	きょうや けんたろう 強矢 健太郎	(株)イトーヨーカ堂 CSR・SDGs推進部 マネジャー	平成30年10月29日から 包括連携協定
市民団体等	たなか みのる 田中 稔	特定非営利活動法人 太陽光発電所ネットワーク	環境政策課
	しが かずお 志賀 和男	クリーンむさしのを推進する会 会長	ごみ総合対策課
	むらい ひさお 村井 寿夫	第四期新武蔵野クリーンセンター (仮称)施設・周辺整備協議会	吉祥寺北町五丁目町会
	しおざわ せいいちろう 塩澤 誠一郎		緑町三丁目町会
	きむら あや 木村 文		緑町二丁目三番地域住民協議会
	おざわ さとみ 小澤 里美	水の学校 サポーター	下水道課
	すずき けいこ 鈴木 圭子	一般社団法人 グリーンボード	緑のまち推進課
公募	かみよしかわ こうど 上吉川 航人	桜堤在住	
	おおたに さちこ 大谷 紗知子	吉祥寺北町在住	
行政	こおり まする 郡 護	武蔵野市 環境部長	平成30年3月31日まで
	きむら ひろし 木村 浩	武蔵野市 環境部長	平成30年4月1日から

討議日程

回	月日	議題
第1回	平成 29 (2017)年 2月20日	・エコプラザ(仮称)検討の変遷について ・第四期新武蔵野クリーンセンター(仮称)施設・周辺整備協議会 「エコプラザ(仮称)事業のあり方中間まとめ」について ・意見交換
第2回	4月27日	・環境に関する講義「環境デザインの視点」「環境教育からESDへ」 ・意見交換
第3回	5月31日	・活用施設の見学会(旧クリーンセンター事務所棟・プラットホーム) ・意見交換「多様な環境活動・啓発について」 ・平成28年度エコプラザ(仮称)整備に向けたワークショップ等の実施結果について
第4回	7月13日	・これまでの議論の振り返り ・環境学習・啓発施設の類型について ・運営のあり方について
第5回	8月3日	・豊田市視察
第6回	9月1日	・視察報告 ・運営のあり方について
第7回	10月2日	・運営のあり方について
第8回	11月7日	・エコプラザ(仮称)のコンセプトについて
第9回	12月7日	・エコプラザ(仮称)のコンセプトについて ～武蔵野市らしさとエコプラザ(仮称)で大切にしたいこと～
第10回	平成 30 (2018)年 2月21日	・エコプラザ(仮称)の機能について ～委員の活動報告を事例に～
第11回	4月24日	・これまでの議論の振り返り ・エコプラザ(仮称)の機能、空間活用について
第12回	5月31日	・エコプラザ(仮称)の機能、空間活用について ・環境市民団体へのアンケート調査項目について
第13回	6月25日	・エコプラザ(仮称)の機能、空間活用について ・エコプラザ(仮称)の運営について
第14回	7月12日	・運営、評価・検証方法について
第15回	8月1日	・エコプラザ(仮称)の空間利用の考え方について ・武蔵野市エコプラザ(仮称)検討市民会議検討のまとめ(案)について
第16回	8月23日	・武蔵野市エコプラザ(仮称)検討市民会議検討のまとめ(案)について
第17回	10月29日	・武蔵野市エコプラザ(仮称)の整備に向けた市の基本的な考え方(案)について ・パブリックコメントの実施状況について
第18回	12月13日	・武蔵野市エコプラザ(仮称)の整備に向けた市の基本的な考え方について ・武蔵野市エコプラザ(仮称)管理運営方針(案)の記載内容について
第19回	平成 31 (2019)年 1月17日	・武蔵野市エコプラザ(仮称)管理運営方針(案)の記載内容について

3. 周辺団体ヒアリング 議事要旨・周辺団体からの提出資料

I 武蔵野緑町パークタウン

日 時 平成 30 年 8 月 13 日 午前 10 時～12 時

出席者 木村文委員、興梠信子委員

聞き手 武蔵野市クリーンセンター関

1 武蔵野パークタウンの歴史

昭和 32 年に入居開始。当時の賃料は極めて高く、高所得者しか入居できなかった。高度経済成長も経て、物価は上昇したが、家賃は据え置かれたため、入居者が入れ替わっていった。

2 武蔵野パークタウン建替えとクリーンセンター建設

①住民参加によるパークタウンの建替え

クリーンセンターの建設の翌年、武蔵野緑町団地の建替えの話が浮上する。多摩地域の UR 都市機構（当時は日本住宅公団）が所有する一斉に建替えの計画が進むことになった。建替え後は高家賃になるため転居する居住者も多くいたが、私（ヒアリング出席者）は「ここに住み続けた」と強く思った。そして、同じく「住み続けた」と思った住民、住んではないが、通勤・通学や買い物で通り抜けをしたり、公園で遊んだりといった経験から、団地に愛着を持っていた周辺の住民や商店会もいっしょになって考え、緑町パークタウン建替えに合わせた住民参加のまちづくりが進められた。

その中で、課題を地域の人たちと話し合う重要性に気づいた。また、地域のことを把握することは大切だと思った。

建替え対策委員会で、住民の話し合いを応援してくださった延藤安弘先生は、話し合いに参加した住民に団地の思い出話や各住棟の自慢話を聞き出すことで、住民の希望をとりまとめた。そして、住宅公団が作成したプランと比較し、そこに大きなギャップがあることを指摘した。こういった話し合いの中で、自分たちがどんな団地に住みたいのかがわかるようになってきた。緑が

豊かな環境が好き。住み続けたい。それを自分たちで形にしてみよう、と。模型や間取り、文集など、部会をつくり、活動を何年も続けた。その成果をパネルにして、人に伝えていく。学ぶ。色々な方法で伝える工夫をした。当時、号棟は 32 棟あったが、全ての号棟で話し合いを持ち、建替え対策委員は総勢 80 名を超えた。一人一人の生活、要望を聞きながら、どうしたら住み続けられるかを考えた。

他の多摩地域の団地の建替えでは、住民が反対運動を起こして訴訟に持ち込むケースもあったが、緑町パークタウンはそれを選択しなかった。「自分たちの想いを伝える」ことを選択した。自分たちが話し合った結果を、地域の人に伝え、共感を得たり、意見をもらったりすることで、議論は広がり、深まっていった。時には、駅前で署名運動をしたり、署名を親戚や知人をお願いしたり、公団まで出向いたりしながら、「自分たちの想いを伝える」努力を続けた。駅前で署名運動をしているときには、「安い家賃で武蔵野市に住み続けているんだから・・・」といった批判的な声も寄せられた。自分たちの想いを他者に伝える、自分たちの活動を客観的に見る、他者から見た意義を考える、そんな活動の中で、住民自身も成長した。自分たちの活動が、他の人にとってどんな意義があるのかを考える機会にもなった。緑懇話会でもそういう話がたくさんできた。住民の熱心な活動が実を結び、パークタウンの建替えでは多くの住民やその周辺の住民、商店会も入って話し合った成果が活かされた。「想い」は色々な人に共有され、他者の「想い」も融合しながら、「開かれたまち」としての団地整備へと発展していった。

具体的な成果として、大きな住棟の分節化、既存樹木の保全、東西・南北の歩行者用通り抜け通路の整備、集会所の配置・デザインがある。

各住棟で号棟委員会が設置されているが、住棟が大きくなると、顔がわからない。コミュニティ形成に程よい規模の住棟に分節することを提案した。人の顔が見えるということは大切なことだと思う。

住民が入れ替わっていくことが当たり前である賃貸住宅でありながら、建替えにあたって「住み続けたい」という想いが生まれたことが大きなことであったと思う。

緑の中を抜ける通り抜け道路は、住民だけでなく、周辺の住民にとっても必要な空間。公共賃貸住宅ならではの「屋外空間は宝物」だと思う。豊かな緑を縫うように、歩行者用の通路が蛇行

しながら抜けていく。「すれ違うときにお互いを気遣う」幅になっており、バイクや車が通らない歩行者のための通路が整備された。この通路を通り抜け、緑町3丁目方面から、商店会へ抜けることができる。中央公園から、中央通りへ抜けることができる。周辺を考えた歩行者のネットワークが形成された。道路の舗装も、音が響きにくい、雨水が浸透する脱色アスファルトを選定した。

既存樹木を極力保全し、多様な植物を植えたことで、四季を感じる緑豊かな空間が形成された。

集会所は、団地全体のコミュニティの拠点である。集会所は、団地の中央に、歩行者のネットワークの中心に配置された。周囲をぐるりと見渡すことができ、建物外周部には、ウッドデッキなど縁側的な空間をつくり、縁側のように住民が気軽に使いやすいデザインとした。集会所では、会合の他にもコンサートや映画会、コミュニティカフェが開催され、住民の交流の場となっている。

緑町パークタウンの配置計画は、細かいところまで検討しつくされている。

こういった居住環境に魅力を感じて転入してくる住民も多い。このような住民は、この地に愛着を持ち、自治会など地域の活動にも協力的である。

団地の建替えを通して感じたのは「コミュニティ」。コミュニティがあるというのは、地域の人たちと話し合う環境ができてのことだと思った。団地内だけでなく、他の団地や、商店会にも広がり、それがつながっているのが緑懇話会。そしてクリーンセンターの場所もこの地域にとっては大事な場所なのだと思う。

②緑町パークタウンのコミュニティ

毎年多くの住民が入れ替わる状況であっても、自治会の活動は活発に続けられている。全国的に、団地の高齢化、自治会の高齢化・担い手不足が課題となっているが、パークタウンでは、防災の取り組みや号棟委員などをきっかけに、若い住民にも声をかけ自治会の役員を募るなど工夫している。手伝える範囲で手伝えることで参加しやすい雰囲気づくりに努めており、幅広い世代が自治会に関わっている。

団地の建替えで話し合いを積み重ねたことで、新しく入ってきた住民にもこの地域の良さを感じ

てもらいたいし、ここに住んでよかったと思ってもらいたい、自治会の活動にも参加してもらいたいという強い想いを持っている。

集会所が団地の中央、誰もが見えるわかりやすい場所にあるだけでなく、ここに集会所があり自治会の活動が全住民にわかるようになっている。ニュースや行事で自治会の動きを伝え続けてきている。自治会に入ってください、という訪問はしていないが、配布される広報を見て自治会に入ってくれる住民が多い。自治会事務所でのコミュニケーションがきっかけで役員になってくれる人もいる。

周辺の緑、市役所、桜並木、子育て環境を気に入って引っ越してくる住民も多く、地域への愛着、関心があって、地域の活動に結びついているのかもしれない。仕事が忙しい男性も積極的な人が多く、驚いている面もあり、価値観が変わってきているという印象を持っている。コミュニティ活動、福祉、子育て、防災に関心のある若い人が増えてきているように感じている。

自治会や町内会がない武蔵野市はコミュニティセンター方式を採用しているが、集まってくる人によるコミュニティセンターでは、地域の課題を解決するのは難しいのではと思う。特に防災や高齢化の課題。コミュニティセンターは、対象エリアが広く、エリア内の一軒一軒の状況を把握できるような状況にはない。災害時に地域支え合いステーションに位置付けられているが、体制がとれるのか不安がある。緑町パークタウン自治会は、各号棟のコミュニティと全体をまとめる自治会組織があり一軒一軒の状況を把握できる環境が整えられている。そのため、継続的な取り組みができること、具体的な活動につなげやすいことが利点である。

③クリーンセンター

団地の建替えの前にクリーンセンターの建設が問題になった。これが、地域の課題を地域で話し合う最初のきっかけになったと思う。

クリーンセンターを受け入れること、迷惑料の話もあって、旧クリーンセンター建設時は相当大的な問題であった。クリーンセンターの建設を認めたのは、私たちにとって必要な施設だと思ったからである。

各団体で色々な考えがあったとは思うが、緑町パークタウンでは、暑い夏に臨時総会を開き、迷惑料を受け取るのはやめて、安心・安全の運営を求めること、受け取って終わりではなく、責任を

持って見守ることを選択した。受け入れるとしても、きちんと監視し安全・安心を選んだ。クリーンセンター稼働後は、居住者に自治会から報告ができています。ニュースも作成しており、各戸に配布している。毎年1回開催している定期総会でもクリーンセンターの状況を報告している。夏祭りでもごみ分別の手引きを配布し、ごみ分別の啓発にもつなげている。クリーンセンターについて関心を持っている住民もいるが、毎年多くの住民が入れ替わる中で、あまり知らない人もいます。運営協議会に参加しているからこそ、ごみを減らさなくてはということを住民に繰り返し伝えていく必要があると感じている。号棟委員会、幹事会は月1回、何十年も続けてきている。このような自主的な組織、民主的なシステムが出来ているところが大事だと思っている。

施設から遠く離れている人はなかなか興味がないのは仕方がないと思うが、全市的に見るとクリーンセンターのことを知らない市民がまだまだたくさんいて課題だと思う。

④運営協議会

運営協議会には個人として出ているわけではなく、緑町パークタウン自治会代表として、責任を持って出ている。運営協議会の範囲を広げるとい意見も出ているようだが、むずかしいようにも思う。

もし、ここにクリーンセンターがなかったら、違う生活があったかもしれないと思う。運営協議会を通じて、緑町三丁目の住民や、吉祥寺北町五丁目の住民と、環境について話し合うことができるのは、とてもすてきなことだと思う。大変な荷物を背負ってしまったことは確かであるが、そこに関わることができる、話し合うことができるということは良かったと思う。運営協議会を通じて、周辺地域の方々との30年間の交流は財産だと思う。これからもこの関係性が続くといい。

武蔵野クリーンセンター運営協議会

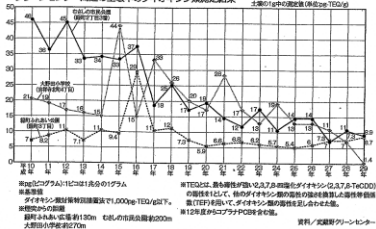
運営協議会とは…

武蔵野クリーンセンター建設の際、昭和59(1984)年に地域住民の安全と権利を守るために設置され、その後に継承された「クリーンセンター構築に関する協定書」に基づいて、周辺4団体と市で協議する協議会のチェック機能です。

運営協議会 日程(平成28年4月～平成30年3月)

日 程	内 容(PT=緑町パークタウン)
4/1	新クリーンセンター落成式出席
4/28、5/23、6/7、8/2、9/26、12/13、2/1	運営協議会会議 9/7-臨時会議(協定書について) 12/13-会議後に理事者と意見交換会
12/15、1/31、3/31	広報「運営協議会だより」発行 第67号(12/15)、第68号(1/31)、第69号(3/31)
9/4	武蔵野クリーンセンター構築に関する協定書締結
9/30	運営協議会イベント 「エコ広場」開催 来場者108名
10/28	パナ研修会 参加50名(PT6名) 行き先:水素情報館入イミビル・日本科学未来館
2/19、21、26、3/2、7、12	環境健康診断 受診者80名(PT109名)
2/21	委員研修 スーパーエコタウン(視)フォーチャーエコロジー・バイオエナジー編)
4/1	新工場棟 クラウドデザイン展覧会 記念講演会出席

クリーンセンター周辺の土壌中のダイオキシン類測定結果



今年度活動のポイント

●新工場棟の本環動開始と本協定書の締結

新工場棟が4月から本稼働するにあたり、新しい設備や仕様、環境基準などに合わせて、新たに協定書を結ぶ必要があり、暫定協定書を3月に締結しました。その後、運営協議会で詳細を検討修正して、8月に正式な「クリーンセンター構築に関する協定書」を締結しました。構成団体は「周辺4団体」としました。武蔵野緑町パークタウンが締結済みの際、都営武蔵野緑町二丁目第2アパートができたため、緑町二丁目三番地地域住民協議会を結成し、1団体として参加してきましたが、今後はそれぞれ1つの団体として運営今日協議会に参加することになりました。(協定書は資料参照)

●旧工場棟の解体工事と今後の予定

昨年から旧工場棟の解体工事が行われています。最終段階のあった建物の地上部分は、3月半ばに終了し、さらに地下部分、杭の解体、地盤が9月末まで行われます。その後、解体跡地に新管理棟や連絡通路などの施設工事、さらに旧車庫所棟のリニューアル工事、植栽など外構工事や道路整備などの整備が行われます。そして、平成31年度内にすべての工事が終了し、エコプラザ(仮称)がスタートする予定です。

●新クリーンセンターの事故

本環動になった新工場で、昨年から4回の事故が発生しています。
 ①11/22 不燃-粗大ごみ処理施設の集塵ダクトで発煙、初期消火対応で直ちに鎮火。ダクトの曲がり部分に溜まったごみに、破砕機中に出る火の粉が引いた疑いがある。
 ②12/7 不燃-粗大ごみ処理施設2号機内で火災発生。原因不明だが、ライターらしきものが混入した疑いがある。
 ③2/22 不燃-粗大ごみ処理施設地下2階の粗破砕物搬送コンベア内で火災発生。消防隊により鎮火。不燃ごみ中に存残の着火物の混入が考えられるが発見できず。
 ④3/13 不燃-粗大ごみ処理施設一次破砕機下で破発音あり。火災はなし。ポンベのようなもの破裂したと思われる。
 いずれも事故発生後、すぐに運転停止、原因の調査、片づけ、安全確認して運転を再開しました。幸いにも、怪我人や設備の破損はありませんでした。
 入れてはいけない有害ごみが混入していた疑いも多く、市も設備の改良とともに、市民にきちんとごみ出しルールを守るよう周知を強めるとしています。

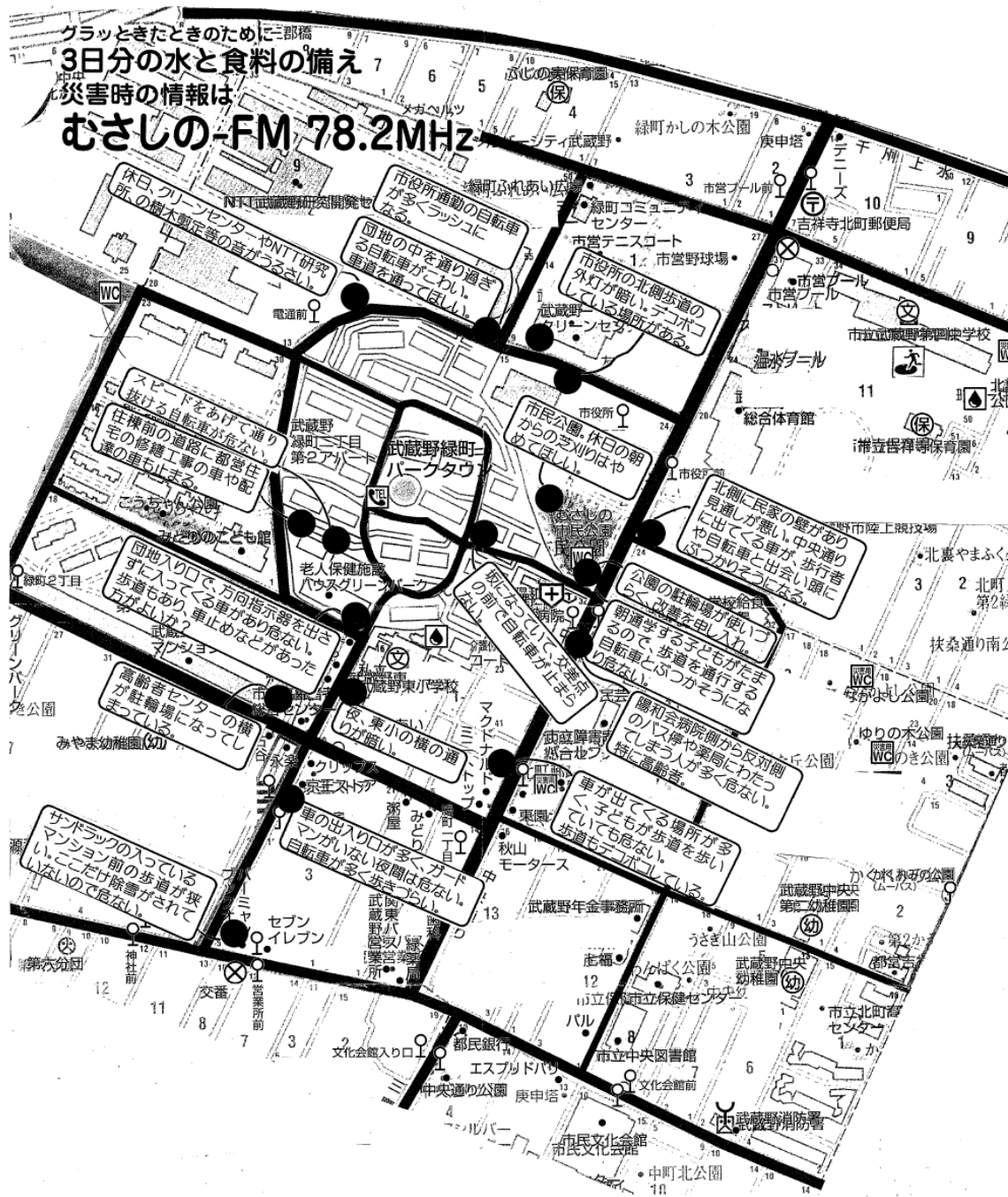
●事業者によるイベント開催

新しいクリーンセンターでは、事業者である荏原環境プラントが環境啓発のイベントなども行うことになり、エコマルシェ(6月、9月、11月)、オープンハーベスト(収穫祭12月)、子どもワークショップなどを開催しました。周辺住民も出店などで参加しています。

運営協議会での議事内容は、自治会の会合で報告され、住民に情報が行き渡っている。(緑町パークタウン自治会総会報告書より)

団地周辺の課題

2018年2月



団地内の高齢化が進んでいる。安定して住めることから、終の棲家として、単身高齢者の入居も増えている。こういう方を地域でどう支えていくかが課題となっている。高齢者総合センターとも連携を取っている。ごみや音の問題、自治会費で問題が発覚するが、なかなか単身高齢者の状況を知る、問題に早期に気づくことが難しいケースが多い。認知症の方のトラブルは、解決までに時間を要することが多い。今は介護保険の対応でヘルパーさんたちがたくさん来てくれていて、支えられているが、ヘルパーさんたちは市外から通っている。災害時どうなるのか不安である。専門家がいる福祉避難所が必要だと思う。ハウスグリーンパークや高齢者総合センターも空間はあるが、受入体制はまだ整っていないようだ。東小学校は障害者を受け入れることになっており、他の地域より施設は整っていると思うが、この地域の高齢者の数からすると、対応に大きな不安がある。

防災対策は自宅待機が原則。パークタウンでは、情報や物資は下から上へ伝えていくことにしている。エレベーターが止まっている中、一度降りてきてしまうと、多くの高齢者が自宅に戻れなくなってしまふ。こういった地域固有の課題も踏まえ、実態に則した防災計画を市で検討すべきと思っている。自主防災組織も具体的な運用まで決まっていないようだ。避難所も収容人数が不足しているし、いざというときに物資が供給されるのか、防災面での課題はまだたくさんあると認識している。

課題が発生するたびに継続的に取組み、少しでも解決できる方向に進むことができる、具体的に動けることが大事だと思っている。

緑懇話会も組織があつて、みんなで話し合つて、ゆるやかでも動いていける。その時々市の役所の担当者とも議論を重ねてやってきた。そういう動きとか、課題解決の力があるそういうまちであることが大事なことだと思う。一つ一つの問題に取り組んで、課題を一つ一つ解決する方向に具体的に動いていけることが大切だと思っている。

地域の事を知るという観点から、長く住み続けてくれる人が増えてくれるといいと思っている。毎年多くの住民が入れ替わることは、新しい視点からの発想もあつて、良い面もあるが、長続きしないという面もある。

ペットボトルでワニをつくったときも、おもしろがってくれる住民が多かった。エネルギーを持っている住民はたくさんいる。私たちがそこをつないでいくことが課題と認識している。

4 クリーンセンターがあるまちの未来

エコプラザ（仮称）は地域に大きな影響をもたらすと思う。日常的なみなさんの困りごとに答えていけるような取り組みがエコプラザ（仮称）でできるとよいと思う。ごみ減量、分別と頭ごなしにいても効果はないと思う。みんな出したくてプラごみをたくさん出しているわけではない。買い物すればプラごみが溜まる社会になってしまっている。「ペットボトルをつぶしてください」、というが、その理由も説明しないと、なかなか浸透しないと思う。地域の人に良く利用されて、自分の暮らしに興味を持ってもらえるようなエコプラザ（仮称）になるとよい。暮らしを変えないとごみは減らないと思う。

使い切ろうと思い、その方法がわかるような、解決できるような場になるとよい。自治会で不用品を預かって、必要としている人に受け渡すこともたまにやっている。エコプラザ（仮称）でそんなことができるといいと思う。エコマルシェで絵本の交換会をやっているが、第三中学校の図書館で廃棄される本があることに気づいて、それを絵本の交換会に寄付してもらった。絵本の交換会は好評で多くの本が市民に引き取られていった。公共から出されるごみを流通する仕組みもいいと思う。

使ってほしい人、溜めこんで困っている人、使いたい人のマッチングができるといい。不用品の流通の仕組みがあるとよい。

団地の住民から、エコプラザ（仮称）に参画する人がいたらいいと思うし、エコプラザ（仮称）が行ってみたいような施設になるといい、まち育て、まちづくり、ごみを減らす取組みに積極的な住民が増えるといい、エコプラザ（仮称）にも期待している。

広がる、つながる、まちとまちがつながっていく。その中央にクリーンセンターがあって、エコプラザ（仮称）があって、語られることが大事だと思う。それに関わることによって、みなさんの暮らしや楽しさが増えて、ここの価値を高めていくことになればいいと思う。

緑町パークタウンは、団地の中だけで完結せず、周辺の商店会や町会ともつながり、外に開いたことで、周辺のまちとつながった。緑町パークタウンがここにあることは、この地域共有の財産であると思う。市役所北エリアもコミセンやスポーツ施設との融合が少しずつ始まっているが、各々単独の空間ではなく、クリーンセンターを通過してスポーツ施設に行くことができるようになったり、

全く新しい空間になっていくことを期待している。今までの話し合いとこれからの発展があるとよい。

子どもの時は千川上水に遊びに行ったり、釣り堀に行ったりしていた。クリーンセンターの敷地は運動場で、昔はよくつくしが採れた。その後、公共施設が整備されていったことで、閉ざされたエリアになってしまったように感じている。クリーンセンターやエコプラザ（仮称）を契機に開かれたまちになっていくとよい。

II 吉祥寺北町五丁目町会

日 時 平成 30 年 8 月 17 日 午後 1 時～3 時

出席者 高橋豊委員、早川峻委員、村井寿夫委員、水野隆司氏

聞き手 武蔵野市クリーンセンター関

1 吉祥寺北町五丁目町会の歴史

ある日突然、市営プールにクリーンセンターを建設すると発表された。当時三鷹市にあったごみ処理施設と同じような施設が建てられると考えた周辺住民は、大反対をした。この運動が吉祥寺北町五丁目町会発足のきっかけとなった。町会は、市議会に 30 名くらいで押し掛けたり、吉祥寺から武蔵境まで、市内全域に「ごみ問題を考えよう」といったチラシをポスティングして、活発な運動を行った。

高橋鐵雄さんが、リーダーとなり、初代クリーンセンター完成後も北町五丁目町会を継続することによってとりまとめた。そして、運営協議会委員を町会から選出することになった。

2 初代クリーンセンター建設

①初代クリーンセンターが完成して

完成したクリーンセンターは、当時三鷹市にあったような施設とは異なり、公害を出さない、臭いも出さない、強固な建物で、周辺の景観になじむようなものであった。市役所の向かいで周辺にはスポーツ施設もあるような立地は全国的にも珍しい。このような立地であるからこそ、市もお金をかけてしっかりした施設をつくった。だからこそ、30 年間大きなトラブルもなく運営できたのではと思っている。また、運営協議会の役割が大きい。クリーンセンターを監視する組織があることで、市の管理も良好だったのだと思う。メンテナンスも適切に行われてきた。旧クリーンセンターの 30 年、市と運営協議会の関係性はよかったと思う。公害もなく、周辺環境も維持されたと感じている。もし、当初の候補地である市営プールにクリーンセンターが出来ていたら、敷地も狭かったし、うまくいかなかったと思う。

②運営協議会

クリーンセンターがきっかけになって、緑町2～3丁目、吉祥寺北町5丁目のつながりができた。運営協議会に参加したことで、人とのつながりができ、勉強にもなったと思っている。何年も委員をやっていることで、人とのつながりが深くなり、環境やごみに関する知識も増える。市と運営協議会の関係性がちょうどよいと感じている。

クリーンセンターの運営協議会を通して、地域のつながり、他の地域と交わることができた。市の対応もよくなった。CO2の問題など環境の問題が広がりを見せているが、相乗効果でどんどんよくなった気がしている。この関係性が続けばよい。

③環境健康診断

環境健康診断は恒久的に続けてほしい。よい機械、設備を導入したので公害はあり得ないので廃止したいとの説明を受けたが、続けてほしい。昔は公害健康診断という名前だった。公害健康診断という名前だと、あの地域は公害があるのか、と思われてしまうので、要望を出して名称を変えてもらった。

新施設になって、公害のリスクは減った。市にとっては、健康診断不要と思うだろうが、地元としては、いつ何が起こるかわからないし、継続してほしい。地域としてやってきたことなので、続けてもらいたい。毎年200～300人受診している。期待している人はそれだけいるということだ。やめるのであれば、説明が必要。

一般的な健康診断ではやらない項目がある。肺活量だったか、それが貴重。公衆衛生の面から、継続的なデータがあるのであれば、貴重なデータだと思う。日中近くにいるのであるから、市役所の職員のデータも合わせて、統計的にデータ蓄積されているとよいのでは。データを整理し、専門家の分析があれば、環境健康診断の意義があると思う。レポートが欲しい。個人のサービス、恩恵と思われてしまうのはよくない。

3 新クリーンセンター建設

①施設周辺整備協議会に参加して

建替えて、緑町三丁目に加わって、武蔵野緑町パークタウン、吉祥寺北町5丁目とつながった感

じがする。風通しがよくなったと思う。

大野田小学校でやっているどんど焼きをクリーンセンターでできればよい。吉祥寺北町五丁目からは、中央通りを渡らないといけなくなるが。束ねているのは青少協なので、今後も調整していきたい。

②クリーンセンター・ごみに関する広報・啓発

ジャンボリーで行く川上村では、武蔵野市とごみの捨て方が異なる。大きく異なるのは、生ごみ。川上村では、生ごみだけを集めて、豚のえさにしている。ジャンボリーに参加した子どもへの教育のきっかけになると思い、担当課に提案したが、ジャンボリーは自然教育に限定されていて、防災やごみの要素は入れてもらえない。複合的な学び、教育に発展していくべきと思う。

市はごみ処理の効率性を第一に考えている。集団回収をやめようとしているのでは。集団回収にどのくらいの人に参加しているのか。ごみに関する活動をしている市民がどのくらいいるのか、横のつながりが無い。どれだけの団体があって、どんな活動をしているのか、どうつながっているのか。部分的な話ではよくわからない。

どの団体も高齢化が進んでおり、継続性が課題と思う。

自分のごみがどこで処理されているのかを知らない市民もいる。毎日スムーズに処理されてしまいうとなかなか意識が出てこない。新クリーンセンターになってから、火災が立て続けに起きていることが心配だ。市民の理解・協力も必要である。

新しいクリーンセンターやエコプラザ（仮称）に多くの人が集まるしかけ、クリーンセンターを知らない人や若い人を集める方法を考えるべき。火災が多発していることも広報、啓発が重要だということを証明しているような気がする。まずは、火災を発生させないことが大切。いまの PR だけでは不十分。デジタルサイネージで消防や警察の PR が流れているが、同じようにごみの PR 映像も流しては。地元のお祭りで、クリーンセンターが出店し、宣伝してはどうか。

4 周辺まちづくりの課題・想い

クリーンセンターは、全市民が必要性を認める施設であるが、自分の家の近くにはあってほしく

ない施設。クリーンセンターは色々な対策がなされ、公害を起こさない、周辺環境に悪影響を及ぼさないような施設としてつくられたが、ごみ収集車などの交通量が増えたことは間違いない。

①公共施設の駐車場

クリーンセンター周辺は公共施設が集まっている。駐車場の運営を工夫した方がよい。北町に野球場利用者の駐車場があるが、市役所の駐車場が使用できるのであれば、その方が利便性もよいし、中央通りの横断の危険も回避できるのでは。

クリーンセンターの敷地内の駐車場は常に使えるのか。

⇒エコプラザ（仮称）やクリーンセンターの利用者は使用できる。土日・夜間はゲートで閉じる計画。

②信号機の設置

第四中学校の付近に信号機を設置してほしい。先日も交通事故があった。危険だと思う。中央通りの横断も危険。信号機があるとよい。体育館の2階のデッキとクリーンセンターの2階のデッキがつながればよかった。

③千川上水整備

千川上水の整備について、人が下に降りられるような浸水空間を整備してほしい。環境共生をテーマに検討してほしい。憩いの場としてベンチも増やしてほしい。

④ムーバス

ムーブスのルートを伸ばしてほしい。四中の前を通過して、緑町コミセンの角を曲がって、市役所を経由する形で、2～3本に1本でもよいと思う。緑町コミセンのあたりに停留所があれば、緑町2～3丁目の住民の利便性が高まる。市役所付近に停留所があれば、パークタウン、吉祥寺北町の住民の利便性が高まる。

クリーンセンターで発電した電気を使うバスをクリーンセンター周辺に走らせてみては。例えば、

周辺三団体と吉祥寺を結ぶようなルート。ムーバスとは異なるデザインにして、市内を走ることで、クリーンセンターのPRにもつながる。

⑤緑のネットワーク

環境的なつながり、緑のつながり、クリーンセンターとエコプラザ（仮称）で新しくつくる緑、千川上水や周辺の緑とつながっていく。北町にとってもよいこと。新施設にどう人を取り込むかという視点から検討してほしい。

北エリアについて、緑町三丁目から多く意見が出ている。北町五丁目側からみてもクリーンセンターと野球場がつながって、歩道が閉鎖的、すっきりとした感じに、クリーンセンターとつながって連続性のある緑がつながるといい。テニスコート周りのツツジ生い茂ってしまっていて死角になっている。すっきり、つながるとよい。

中央通り側、緑町三丁目町会の市民花壇をという話もある。

北デッキの開放はできないのか。野球の試合の時に入れないのはもったいない。有効活用できれば。イチョウが邪魔で野球が見えにくいのが残念。

⑥エコプラザ（仮称）

歴史的遺構として初代クリーンセンターを残すことは大切。次の世代に残し、つないでいくべき。競技場の土手は中島飛行機の工場を建てる時に掘った土でできている。

⑦吉祥寺北町五丁目町会の現状

五丁目町会は、すごくまとまっている地域と思う。昔からの地域の古いつきあいがベースにあって、新しく引っ越してきた人がその上にあるようなイメージ。原則、市内に町会はない。結束力があるのはよいことだが、今後クリエイティブな視点で考えなければいけないと思っている。町会の高齢化が課題である。若い人を取り込みたい。周辺と交流、コラボしていかなければ、と思っている。一斉清掃に合わせて、ごみ拾いの企画も進めている。若い人、子どもも住んではいるが、町会が高齢者の組織、というイメージもありなかなか参画が見られない。

Ⅲ 緑町三丁目町会

日 時 平成 30 年 8 月 21 日 午後 7 時～9 時

出席者 藻谷征子委員、島英二委員、大平高司氏、斉藤武子氏、杉本安雄氏、川村裕氏

聞き手 武蔵野市クリーンセンター三浦、関

1 緑町三丁目町会の歴史

前身の団体北裏庚申会は、戦前からある。今より広いエリア、中央通りから三郡橋の方まで。住人が集まって、話し合い、親睦会を行っていた。緑町三丁目町会は、昭和 31 年に規約等が整備され、今の形になった。

古くから代々住んでいる人が多く、町会がずっと続いている。ここ最近では、若い世代の入居も多い。昔のクリーンセンターの経緯を知らない住人も増えている。

市内で昔から町会があるのは、緑町三丁目町会を含め 2 か所のみ。緑町 1 丁目町会ができたのは最近のことである。

2 初代クリーンセンター建設

①初代クリーンセンターが完成して

三鷹のごみ処理施設、杉並のごみ処理施設を当時見学に行った。昔のごみ収集車は生ごみから出る水分をばたばた垂らしながら走るようなものであった。まちのど真ん中にこんな工場ができては大変だと思った。

桜井さん、源正寺、榎本さん、含め 4～5 人で譲った土地。市からは「大規模なスポーツ施設をつくることできるのはここしかない」、との説明があった。スポーツ施設として利用されると思って、土地を譲ったが、結果クリーンセンターが建設されてしまった。土地を売却した際には、スポーツ施設が整備されるという前提で、ごみ処理施設が建設されるような話はなかった。だから裁判にもなった。

できあがった施設は、結果的に、煙突も建物もよいものができ、公害もない。なくてはならない施設、嫌われる施設であるが、きれいな煙突も建ててもらったし、時を経てこの地に馴染んでいった

と思う。

クリーンセンターは必要な施設。どこかにはなくてはならない。捉え方で色々な意見があるだろうが、きれいな施設、きれいな運営。パッカー車から汚水が垂れることもなく、収集作業員ともあいさつを交わしたり、良い関係が築けていると思っている。

②運営協議会

職員とも親しくクリーンセンターは身近な存在。エコプラザ(仮称)も身近な存在になるとよい。

事故があると、すぐに運営協議会委員に市から連絡が来る。こういうつながりが出来たというのは、得難い経験。周辺3団体は、ごみの分別が徹底されていると思う。でも、吉祥寺や武蔵境の方の住民は意識が薄い市民も多いと思う。分別に起因して、工場がこわれてしまっは大変。まめに市民へPRしていくべき。

運営協議会のメンバーは3団体だけでよいのか、疑問もある。新クリーンセンターが完成するときに、そういう話が出たが、いつの間にか今のメンバーで、となった。バス研修、環境健康診断などの福利厚生的な面は別立てとし、クリーンセンターの運営自体は全市的に考えていくべきではと思う。

3 新クリーンセンター建設

①運営

ごみ処理場は3Kのイメージがある。しかし、この地に再び建てるのであれば、このイメージを払拭するような施設がよいと思った。

町内住民の入れ替わりもある。クリーンセンターがあるのを承知で引越してきている。なので、今後のクリーンセンターの運営とどう向き合っていくのが重要だと思う。

クリーンセンターは建っているけれども、迷惑を感じているという声は出ていないようだ。クリーンセンター建設後に入居してきている住人も増えている。これからのクリーンセンターの運営、安全・安心に稼働されるかを望んでおり、それに三丁目町会がどう向き合っていくかが大事だと思っている。

②広報、PR

市外から友人がきて、クリーンセンターのことを紹介するとびっくりされる。武蔵野クリーンセンターはすごいね、と言われる。孫は Pepper が大好きで、家に遊びに来るたびにクリーンセンターに行きたい、という。見やすい、入りやすいクリーンセンターであるが、全市的に見ると、まだクリーンセンターのことを知らない市民もいる。エコプラザ（仮称）と合わせて全市民にとって身近な施設になるとよい。そうなれば、有害ごみの問題、分別も徹底されるのでは。

ごみ分別のルールと合わせて、その分別の理由、どう処理されるのかを説明していくべきだと思う。

クリーンセンターのことを知っているのは周辺の人。吉祥寺や武蔵境では、まだまだ知らない市民が多い。全市民にクリーンセンターを知ってもらうことに力を入れてもらいたい。

運営協議会は地域3団体で構成されており、運営協議会だよりはこの周辺にしか配布していない。クリーンセンターニュースは、建設事業完了とともに終わってしまう。エコプラザ（仮称）の広報がどうなるのかはわからないが、全的にクリーンセンターを紹介するツールが市報しかない。

ごみ問題はクリーンセンターだけではない。ごみ総合対策課とクリーンセンターが組んで出前講座をどんどんやっていくべきだと思う。青少協、福祉の会、学校、コミセンなど色々な団体に働き掛けていってはどうか。有害ごみの分別も含め、年に100回くらい開催するくらいの勢いで、根源から説明してかなければならないと思う。3団体のエリアはごみについて考え、意識しているが、それ以外の地域については、ごみを考えることはなかなかないと思う。ごみ、下水、水道など当たり前前に処理されるものを全市民に意識してもらうためには、強いアプローチが必要だと思う。

運営協議会だよりはお金をかけても全戸配布するべきだと思う。今後、運営協議会で話し合って、意見をまとめて、新体制になった市と調整していきたい。

分別の徹底は重要なこと。市議の数人も爆発のことを騒ぎ立てているようだ。広報は重要だと思うので、ぜひ出前講座や各コミセンでの講演会などを検討してほしい。地域フォーラムのテーマとしてもらうのもよいと思う。

武蔵野市は人口の3割が入れ替わる。毎年、繰り返し広報しなくては。

ごみ処理には手間がかかっているということも市民に周知すべき。コストがどれだけかかっている

かも伝えていくべきだ。

エコマルシェはよいと思う。見学に引き込むしかけ、クイズラリーも良いと思う。ただ毎回同じだと飽きてしまう。バージョンアップが必要。

クリーンセンターが完成した後に引っ越してきた。ごみ処理施設のそばというのは、イメージはよくないけれども、においもなく、実際に害はない。旧クリーンセンターで開催していたフリーマーケットに家族が出店していたこともあり、身近な施設と感じていた。新クリーンセンター、エコマルシェは子育て世代など若い人にも身近な施設と感じてもらいたいイベントだと思う。エコマルシェは市民とつながる場としてよいと思う。社会科見学の事前学習を市や荏原の職員が行うのもよいのでは。

③施設・周辺整備協議会

旧クリーンセンター建設時には、3丁目町会は議論のテーブルにつかなかった。建設反対の姿勢を貫いた。しかし、今回は、まちづくりの観点から議論に参画することにした。実際に参加してみると、機械のことなど、難しい話もあったが、詳しいことはわからなくても、みんなで話し合うことで理解が深まった。視察で実際に色々な施設を見ることがとても勉強になった。施設を見たり、その施設に関わる人の話を聞いたりしながら、武蔵野クリーンセンターを良い施設にしたいという想いが強くなっていった。テラコッタルーバーも実際の設置事例を見て、良さがわかった。みんなの意見と専門家の意見で、話し合った結果がよい施設につながったと思う。特に景観や緑など興味の強い分野では、意見も出して、できあがった施設。思い入れもあるし、ただ説明されて建設されるのとは違う。住民との関わりの中で出来上がった建物。みんなも愛着を持っていると思う。関わった私たちが他の市民にも伝えられると思う。関わったことで、大変なこともあったが、楽しかった。クリーンセンターが完成したときには大きな喜びを感じた。煙突は家から見えるシンボル。関わったことで興味を持てた。伝えていきたい。3団体だけではなく、他の団体の方とのつながりが持てたこともよかった。自分に理解できるのか不安だったが、みんなの意見と小澤先生のまとめで、会議の運営もうまくいったと思う。

市民参加の発想が事業に活かされた成果だと思う。ハコモノは、業者まかせなことが多い。事業

者が設計して、意見を聞く場はあるものの、ほぼ手直しできないケースが多いと思う。クリーンセンターの近くで生活している中で、こういう施設になったらいいな、と思うことが取り入れられた。1つはプラットホームの地下化。夏場は風向きでゴミ収集車からゴミの臭いが漂ってくる。プラットホームは地下化して、臭いが中央通り側に流れないようにしてほしい、と意見を伝えた。こういう話し合いが一般の市民で行われ、実際に活かされているといのは、市民の力だと思っている。事業者も市民がどう考えているのかを理解した上で設計がなされている。通常の事業とは大きく違うところだと思っている。市民参加で進めるという構想は良かったと思っている。

町会にとっては身近な施設。3Kのイメージを払拭するためにどうしたらいいのかを素人なりに考えて、よい施設になったな、と思っている。武蔵野市の市民参加で進めるという考えが端々に見られるが大事なことだと思う。

構想の段階から住民が加わったことがポイントだと思う。住民からすると迷惑施設であるが市からすると、もはや迷惑施設ではない、という言い方もできるかもしれない。地域の人が参加したことで、このギャップを埋めることができた。迷惑施設から脱却しよう、地域にあっても誇れる施設というコンセプトが出てきた。迷惑施設という住民の発想、でも作るのであれば誇れるような施設としたいという想い。一般的な市民参加であれば、一般論の議論で終わってしまいがち。ここに住んでいるからこそ、普段肌で感じていることが、活かされた議論が進められたと思われる。住民も誇れる施設になったと思う。課題はあるが、概ね納得のいく施設になったのではと思う。役員会など町会でもアンケートを取ったり、情報公開したり、地域の中で手順を踏んで進めたから、苦情がない。構想の段階からいねいに町会の中でも説明をしてきた。

自分の家ではないが、できあがったら誇れる、自分が関わった施設ができたという想い。町会以外の人にも、クリーンセンターの紹介やゴミ分別の話をしてきた。町会として参加して、よかった。

4 周辺まちづくりの課題・想い

三丁目としては、ここにクリーンセンターをつくる以上まちを良くしてほしいというのがある。少しでも町会の要望を取り入れていただいて、接点が見つかればと思っている。

クリーンセンター建替えにあたって、当初は市長も呼んで、喧々諤々の意見交換をした。そこ

から話し合いが継続して、はじめは市から無理と回答のあった要望についても、実現されたり、実現に向けて前進したりしている。話し合うことが大切だと思う。住民をどう巻き込んでいくかが必要な視点。

例えば 41 号線の無電柱化など、元々町会から出した要望に対し、市から前向きな回答がなかったが、話し合いを継続することによって、市の計画に位置付けられるなど、進展があった。町会の粘り強さが評価されたものと感じており、うれしいことだ。

北エリアの緑化については、自分たちが住んでいるまちの緑がよくなる、まち美化、花壇、自分たちの住んでいるまちを良くしたい、まちへの誇り、想いをみんな持っている。

緑町ふれあい広場の緑が鬱蒼としすぎていて、せっかくの新クリーンセンターが見えない。

生い茂りすぎていて、車がぶつかったり、標識も見えない。台風の時に枝がたくさん落ちてきて危険である。

千川上水の整備計画に関連して、庚申橋の近く、桜の枝がだいぶ伸びていて、風が吹くたびに建物や電線に接触している。危険なので、早急に剪定してほしい。千川上水の柵の位置はどうやって決まっているのか？ところによって、道路の幅が異なる。狭いところは拡幅する形で検討してほしい。

⇒千川上水の話し合いは別途場を設けさせていただく。緑のまち推進課に伝えておく。

NTT 増築工事 当初は計画内容についてもめたが、話し合いを継続したことで、町会のお祭りに参加するなど、よい関係性が生まれつつある。

NTT は町会の会員にはなっていて会費を払っているだけで、何か町会のためにするという事はなかった。増築工事がきっかけとなって、話し合いを進め、NTT 側も歩み寄りがあった。交流の場を設けて、理解し合うことができればと思っている。

クリーンセンターは行きやすい場所。市職員とも親しい関係。身近な場、人と人との関係性を大事にしたい。

北エリアの整備をみんなが元気なうちに進めてほしい。

建物はよいので、その周りもよくしていけたら、緑も整備し、空気もよい、いいエリアになれば、もっと住みやすい、住みたいと思われるようなまちにしていきたい。緑町三丁目は北の端っこと言

われがちだが、クリーンセンターがあって、良いところと思われるようなまちになればよい。単に道路を整備するだけ、では違うと思う。クリーンセンターは迷惑施設ということはベースとして押さえておくべきであるが、良い施設はできた、そして次は周辺整備へ、そしてそこに住む人が気持ちよく暮らせるまちになれば。色々な意見を持つ人がいると思うが、地域住民の声を聞いて、住んで良かったと思われるようなまちづくりをしてほしい。このスタンスは継続していかなければ、30年後に大きな問題となってしまう。

過去には色々あったが、クリーンセンターがあるまちとして、納得できる段階に来ている。今後は周辺整備。将来代替地が見つかったとしても、処理方法が変わったとしても、ごみ処理の一部の機能はここに残るかもしれない。その時に、周辺住民から受け入れられるためには、地域住民との話し合いを継続することが大切。

不動産のチラシを見ると、緑町三丁目は人気があるようだ。この地に魅力を感じている人たちがここに住んで良かったと思えるまちづくりをすすめなければ。クリーンセンターがありながら、魅力を感じて入居してくる人がいる。これを未来につないでいかなければ。

これからも住民の意見を聴き続けるスタンスを大事にしてほしい。

5 クリーンセンターのあるまちの未来

機械の寿命は30年。30年後どうなるのかが関心事。また建替えるのか、西側に戻すのか。今回は代替地がなくという市の説明も理解はしたが、今から30年後、ごみ減量を徹底して、焼却施設だけを残す形で縮小する、市内に分散させるなど、ここの負荷を軽減してほしい。ごみが出てしまうのはやむを得ないが、ごみ減量。生ごみ処理設備を各町内に配布するとか、そういう斬新なアイデアも取り入れてほしい。孫の世代、30年後が心配である。

⇒市は広域処理を目指しているが、30年後は処理方法も変わってしまうかもしれない。

町会の最大の課題は30年後。経験した世代がいる間に次の世代に伝えていかないと。建設が終わって、経過を知っている人がいる、熱があるうちに30年後を考える場づくりが必要ではないか。1年に1回でもよいので、ごみ問題を考える場を、考え続けることをしないと経過が忘れ去られてしまうと思う。周辺3団体を巻き込んで、維持し続けるとよい。運営協議会は、クリーンセンター

の運営を取り扱うので、別であるとよい。20年後にいきなり議論をスタートしても遅いと思う。細々と検討を続けるべき。

⇒エコプラザ（仮称）がそのような場になるといいと思う。エコプラザ（仮称）の建物はメッセージ性がある。旧クリーンセンターの中で30年後に向けた仕掛けができれば。

30年後に向けて、意識を共有して細々とでも話し合うことを継続すべき。もっと誇れる施設にするために、エコプラザ（仮称）を全市にアピール、いかに魅力的な施設にするかが、重要だと思う。

エコプラザ（仮称）は、足を運びやすい施設、利用しやすい施設に。

IV 緑町コミュニティ協議会

日 時 平成 30 年 8 月 24 日（金） 午後 4 時～ 5 時 30 分

出席者 越智征夫委員、山崎君枝委員、植村進氏

聞き手 武蔵野市クリーンセンター荻野、関

1 緑町コミュニティ協議会の歴史

昭和 59 年 1 月 20 日号のむさしの市報に詳細が掲載されている。昭和 57 年 12 月に、緑町三丁目の要望事項が 13 項目、クリーンセンターに提示された。そのうちの一つに、この場所に三丁目の集会所をつくってほしいとある。これを元につくられたのが緑町コミセン。昭和 46 年に市のコミュニティ構想ができ、各地にコミセンがつくられていた。昭和 57 年の第二期長期計画においては、緑町 1～3 丁目、吉祥寺北町 4～5 丁目に合わせて「中央北エリア」と位置付けられ、このエリアに 1 つのコミセンを計画していたが、緑町三丁目町会からの要望を受け、昭和 59 年の第三期コミュニティ市民委員会で議論した結果、緑町コミセン、けやきコミセンが建設されることになった。地元への還元施設としての意味合いも含んでいたと思う。

緑町三丁目町会の人たちは当時クリーンセンター建設に反対。まちづくりの委員会には参加しなかった。緑町コミセンの建設を進める準備会や「緑町コミュニティセンターをつくる会」には、緑町 1～3 丁目の住民が参加し、コミュニティ協議会の運営や会則などを検討して、昭和 61 年に開館した。用地が早くに決まったこともあり、7 年の歳月をかけて建設用地や建築設計や運営の細部に至るまで住民主導で決められていったけやきコミセンよりも早くに完成した。緑町一丁目の岡田さんが初代委員長で、当時地元はあまり関わっていなかった。緑町コミセンは、狭い割には、使い勝手はよいと思う。可動間仕切りが多く、色々な広さ、形で使用できる。エレベーター、当初は北か南が良いと思っていたが、壁に穴を空けられず無理だった。結果中央に設置されたが、これはこれで場所がわかりやすくてよい。

運営委員は募集をかけて集めている。緑町一、二、三丁目ですべてを順番にまわしている。緑町全体でみると、少し端に寄った立地。緑町三丁目は NTT や野球場があり、世帯数としては少ない。緑町パークタウン、都営武蔵野緑町アパートは世帯数が多く、それぞれ集会所がある。エリアとし

て特徴的ではある。端っこでも使いやすい施設を目指していきたい。

2 旧クリーンセンター建設

都営武蔵野緑町二丁目第3アパートは当時、クリーンセンター建設に反対しておらず、そのために運営協議会には参画できなかったという話も聞いたことがある。(注/公式記録としては、クリーンセンターに隣接する団体に限定して運営協議会の範囲を決めたとされている。) 環境健康診断の対象外。後から入れてほしいと要望したが、協定があるから、と断られてしまった。健康問題には不安があったので、環境健康診断のエリアには入れてほしかった。有害物質が着地するのは、煙突から少し離れた地点と聞いたこともあり、たまたまかもしれないが、喘息になった住民が複数いたので、不安だった。

⇒環境健康診断のあり方を現在検討している。大気測定など、全体の環境のデータの検証に切り替えていくことも含めて検討している。

反対した住民、賛成した住民の間に微妙な関係が生まれてしまったと感じている。緑町三丁目にはクリーンセンターからお湯が供給されていると思っている市民もいる。当初はそういう話も出ていたと聞くが、もちろん実現していない。

当時は市が迷惑料として、緑町三丁目町会、緑町住宅団地自治会、吉祥寺北町五丁目町会に2000万円支払うことを打診したが、断られた。迷惑料を受け取って終わりではなく、住民がクリーンセンターの安全な運転を監視するための組織を希望し、クリーンセンター運営協議会が設置された。

3 周辺まちづくりの課題・想い

クリーンセンターの建替えに合わせて、緑町コミセンを使いやすくしたい、テニスコートをつぶしてクリーンセンターとつなげたい、という提案も当初していたが、エレベータが整備され、よかったと思っている。

平成30年8月吉日
緑町コミュニティ協議会
委員長 植村 進
副委員長 越智 征夫
副委員長 山崎 君枝

緑町コミセンとしての提案

武蔵野クリーンセンターと緑町コミセンは、同一区画内に設置されている。このことで、双方が最大限に共有活動する事を期待して、地域住民が現在からさらに将来を展望した、より利用しやすい緑町コミセンを目指して提案する。

—記—

1. 西側歩道を地域住民が安全で快適に利用するために現在より1～1.5メートルを拡幅されるのに伴い、玄関のスロープの安全確保と4か所の掲示板を移設する場所を検討したい。
2. 既存の自転車置き場を高い屋根に改造して、イベント時にテントを設置しなくても全天候での快適な、行事活動が出来る様に検討したい。
3. 緑町ふれあい公園の腰高の花の咲かない花壇の木を撤去して、地面を露出した、運動等が出来るスペースとして、子供たちが伸び伸びと遊べて、公園とコミセンとの間に柵の無い一体感のある広場としたい。
4. 公園内、遊歩道の道路面を雨水が浸透できるアサファルト舗装する。現在は、雨が降るとぬかるみ状態となり歩き難いまた、履物に泥が付着して清掃に苦慮している。
5. テニスプレーヤー用のトイレ数が不足しているようであり、スポーツ事業団として、テニス・野球等を対象にトイレ利用者アンケートなどを取り、スポーツ者向けのトイレ増設の対策をお願いしたい。
6. コミセン南側のテニス利用者用自転車置き場をコミセンイベント事業の際一時的に開放して頂きコミセンイベントに専用利用をお願いしたい。
7. エコプラザの1階ホールをコミセン事業に利用できるようにルール構築していただきたい。

以上

↑ 緑町コミュニティ協議会からの提案書

①提案書について

提案1について、入口のスロープのタイルが滑りやすいので改修してほしい。

⇒提案2について、市は、コミセンの駐輪場の位置、コミセンの南に移設し、北側はふれあい広場と一体利用ができるような形にする方向で考えていたが、駐輪場は北側の方がよいのか？屋根は

建築基準法上建築物の扱いになるので、注意が必要。

⇒提案5, 6については、体育館に確認する。

⇒提案7について、エコプラザ（仮称）検討市民会議で検討しているが実現できると思う。

前面道路後退に際して、樹木の伐採予定はあるのか？

⇒高木は伐採しない。低木は接触するものについては整理する。

今あるフェンスはどうなるのか？

⇒フェンスは撤去する。ツバキなどは撤去し、地被類を植えて土手状に整備する。段差が大きい部分のみ転落防止のための柵を設ける可能性はある。

クリーンセンター西側の出入口はどうなるのか？スロープは残すか？

⇒スロープは勾配が急なので撤去予定。他の部分にバリアフリーの基準にあったスロープを設置。

階段は残すか、他に出入口が複数できるので撤去するか、検討中。エコプラザ（仮称）の正面玄関をどうするかにもよる。

②災害時も電力供給されるコミセンとして

支え合いステーションの位置付けはあるが、防災用品の備えがない。また、福祉的なサポートとなると、24時間だれかがつきっきりになる。運営委員にそこまでできるか。運営委員が災害時に駆け付けられるか、といった課題がある。

緑町パークタウンと都営武蔵野緑町アパートは世帯数が多い。ガレリアも多い。それぞれ自主組織があって、防災備蓄もしている。コミセンに来ることなく、自立して対応することになると思われる。近くにいる三丁目町会の活動が結びつければよいと思う。

⇒市内唯一の災害時も電力供給されるコミセンとして、地域支え合いステーションの先駆的な取り組みをご検討いただけるとありがたい。

4 クリーンセンターがあるまちの未来

初代クリーンセンターのまちづくり委員会の提言では、テニスコート5面、ソフトボール場で公園部分が広がった。しかし、最終形は違った。テニスコート7面、野球場。スポーツ施設が優先されてしまったようだ。今は、中央公園や小金井公園、各中学校にもテニスコートがあって利用できる。武蔵野市はテニスコートが多い地域。なので、テニスコートが1面でもなくなればと思っていた。そこを使ってクリーンセンターとコミセンをつなぐことが理想であったが実現しなかった。

新クリーンセンターは、世界中から見学にくるような施設。安全・安心でデザインも良い。緑町コミセンもそれに見合う施設に。テニスを見ながらコミセンのテラスでお茶が飲めるようになるといい。コミセンとスポーツ施設の融合ができれば。

ごみ発電の電力が供給されているコミセン。本当はコミセンとクリーンセンターを同じ建物にしてほしかったが、それは実現されなかった。しかし、クリーンセンター、エコプラザ（仮称）、コミセンと連携ができればと思っている。

V けやきコミュニティ協議会

日 時 平成30年8月22日（水） 午後1時30分～3時

出席者 高石優委員、島森和子委員、寺島芙美子氏

聞き手 武蔵野市クリーンセンター関

1 けやきコミュニティ協議会の歴史（別紙2参照）

①けやきコミセン建設

クリーンセンター建設にあたって活動していたメンバーが、クリーンセンターの着工後、この地域にコミセンをと訴え、7年間かけてやっと勝ち得た。クリーンセンターがなければ、なかったコミセン。クリーンセンター建設で力を発揮した人たちがその熱を持ったままコミセン建設を働きかけた。自分たちががんばればがんばるほど、行政もそれに応えてくれるのを体感し、行政とやりあいながらやっと完成した。基本設計は普通の建築士が行ったが、それに色々と意見を言い、12～13案程度のプランを作成。やっと今のプランになった。

元々、住民側はさわやか公園の近くを用地として選んでいたが、場所が吉祥寺北町の端であること、敷地が狭いこともあり、当時の土屋市長から今の敷地の提案を受けた。隣に公園があるコミセンというのは、とても恵まれている。今の場所になって良かったと思っている。

②けやきコミセンの運営について

7年間の活動の中で、市内のコミセンを回って、課題や良い点をヒアリングした。どうしたら良い運営ができるのか、練りに練ってつくられたのが、「けやきの精神」。7年間色々と勉強した。その中でコミュニティ構想の理想に近いコミセンをつくろう、と思った。九浦の家で勉強させてもらったり、北コミセンの人に来てもらってお話を聞いたりもした。

意見を言い合うだけでなく、実際に見に行ったり、行動を起こしたりしながらやっている点がけやきコミセンの特徴だと思う。

建物もかなりこだわった。色々と視察に行き、練馬の岩崎ちひろ美術館が良いという意見で一致し、そこの設計士を紹介してもらった。

中庭にシャラの木をシンボルツリーとして植えているが、小金井市の専門学校など色々なところに見に行くと、どの木がいいかをみんなで選んだ。世田谷美術館も視察に行き、美術館周辺のまちあるきもした。世田谷美術館のまわりには、「いろはにほへと」をモチーフにしたマンホールの蓋があって、このマンホールやまちなみなど、色々な気づき、ヒントがあった。同じものをつくるにしても、少し工夫するだけでよいものになると思った。けやきコミセンでは、家具もこだわった。ホールのテーブルは、アンティークのものを調達した。

こういった取組みの中で、自分たちの想いも高まっていったし、コミセンの運営についても色々な考えが生まれ、それが今の運営に活かされていると思う。「けやきコミセンを建てる」というところから一生懸命活動してきて、それが運営につながっている。今は共働き世帯も多く、あれだけの活動はなかなかできない。でもあの時に生まれた精神は大切にひきつがなければならないと考えている。他のコミセンとは少し違うところがあると思う。けやきの運営はよい、と褒められる一方で、けやきコミセンの運営はあれでいいのか、と批判されることもある。行政的なハコモノ管理の観点からすると、はまらない側面があるのかもしれない。

2 初代クリーンセンター建設

①初代クリーンセンターが完成して

北町4丁目、五日市街道の方に住んでいて、少し距離があるが、クリーンセンターが出来て嫌だ、とか違和感があるという話は聞かない。市も環境健康診断などをやって、しっかり対応している印象。建設にあたって、徹底的に話し合ったことから、住民もある程度納得したのではないかと。北町五丁目の高橋鐵雄さんが、その点では相当尽力してくれたと思う。地主で、元学校の校長先生、住民の意見を公平にまとめてくれて、偏りのない考え方をする方でみんなから慕われていた。町会の設立にも尽力。町会の役員も、地主に偏らないようバランスをとるために地主以外の住民を入れるなど工夫していた。

②運営協議会

運営協議会はクリーンセンターの見張り役としてできた。運営協議会をつくってもらったことが

よかったと思う。話し合いの場があるというのは大切だと思う。運営協議会は旧クリーンセンターができて以来ずっとある組織。運営協議会があるからこそ、環境健康診断もあり、困ったときの窓口がある。ありがたい存在と感じている。

3 新クリーンセンター建設

①施設・周辺整備協議会への参加

高石さんが新クリーンセンターへの意見をかなり持っていて、けやきコミセンでも村井さんと高石さんがよくクリーンセンターについて意見交換をしていた。

機械を可能なかぎり見やすくすべきと思っていた。他のごみ処理施設も色々と視察に行ったが、そういう面では、武蔵野クリーンセンターはよく出来ていると思う。

クリーンセンターは、老朽化に伴うコスト削減方策を取り入れてほしかった。溶鉱炉は、部分交換ができるようになっていて、建替えずに部分改修を繰り返して延命できるような構造になっている。新クリーンセンターの焼却炉も同じような構造にしてほしいと思っていた。高石さんは、元々そういう意見を持っていたので、けやきコミセン代表としてクリーンセンターの協議会に参加することになった。

②新クリーンセンターが完成して

クリーンセンターの協議会に関わっていない市民の立場としては、ちょっとお金をかけすぎでは、とも思う。建物も立派だし、住民参加の委員会も複数あって、少し冷めてみてしまう。お金はかかってそうだけど、素敵な建物だとは思う。市役所とのつながり、景観も良いと思う。

先日、子ども向けのイベントに孫と参加した。見学ツアーで説明の人がわかりやすく、ワークシートもよかった。旧クリーンセンターと比べると、格段にごみのことを学びやすくなっている。これは私たちが望んでいたこと。子どものうちから、ごみについて学ぶことのできる施設にと要望していたことが、実現されていると感じた。

近くにいるので、色々な情報があって、参加もできる。しかし、コミ研連で色々情報提供はしてきたが、なかなか遠方の人は興味を持ってくれない。コミ研連の見学会を企画してもいいかもしれない。

4 周辺まちづくりの課題・想い（別紙1、2参照）

①防災

クリーンセンターは、災害時に帰宅困難者の一時受入を行うという話もあったが、クリーンセンターは、ごみを燃やすことが一番の仕事なので、災害時の受け入れよりも、ごみ焼却を優先させてほしい。

②障害者地域生活支援ステーション「わくらす武蔵野」

施設完成後、ステーションの人たちと地域の花植えボランティア、実のなる木の収穫作業を行うような話が出ている。障害者センターについて、隣接している立場からは、喜ばしいことではなかったが、どうせできるのなら良い施設、愛される施設にしてほしいということで、近隣で会をつくって市と協議を重ねている。その結果、市も理解が進んできて、ホールを貸し出してくれたり、植栽を一緒に決めたりとなってきた。良い関係を築ければと思っている。パールブーケのパンを出張販売するとか、自然と地域とのつながりが出来ていくとよい。行政と市民とのパートナーシップでやっていくことが大切。障害者センターも、本来であればもっと歓迎される施設であるべきだった。いきなり行政から、確定したプランで説明があった。ちゃんと説明があれば、協力も理解もすると思うが、いきなり図面を示されて困惑した。しかし、その後の話し合いで建物の配置を反転させてもらった。本当は設計の前の段階から相談してほしかった。いきなり設計図が示されて、反対運動しようという住民もいたが、クリーンセンター運営協議会のような組織をつくることになり、障害者センターで1年に1～2回会議を開催する予定。なにかあったときは話し合えるような場が必要と考えている。

③空き家の活用

都営アパートやUR都市機構の空き部屋を被災者が元々住んでいたコミュニティごとまとめて入居できるようにしてはと思う。災害が多いので、避難所として空き家を活用できるとよい。いい考えがいろいろ話し合いで出てくるが上に伝わっていかない。市から都へ意見を言っていくべきだと思う。

④エコプラザ（仮称）

市の中心にあるクリーンセンターについて、塩澤委員、村井委員など若い人は市のコミュニティの中心にあるようなエコフォーラムができれば、と言っていた。こういった要素が改善されればという細かい点はあるけれども、クリーンセンターはエコプラザ（仮称）とあわせて、クリーンセンターならではの役割を担ってほしい。例えばライフスタイルの変容。社会には物が溢れている。ライフスタイルを変えていくような文化にしていければいいと思う。家の中、物の整理ができないことが現代人の課題と思う。シンプルで、本当に大事な、その人らしいファッションで自分の人生を楽しめるようなライフスタイル。使い捨てではなく、時と催事に合わせて、何度も服を着るような。そんなライフスタイルを提唱するようになるとよい。

年間のごみ処理経費は30億円くらい、これだけの費用がかかるごみ行政は、日本の文化だと思っている。先日、三鷹の阿波踊りを見に行ったが、日本には美しく、楽しい祭りが全国にたくさんあり、コミュニティがある。エコプラザ（仮称）がその拠点になってもよいのでは、と思っている。

コミセンは色々な規制がある。エコプラザ（仮称）は自由に使える場になるといいと思う。

お祭りなどイベントをやる、まちが活性化する仕掛けは必要だと思う。コミセンで何もかもはできない。特化した内容のものはエコプラザ（仮称）でできるといいと思う。イベントをやるとなると広い倉庫が必要。

以前、ごみ減量協議会に入っていたが、ごみの活動をしている人は、ごみ減量に一直線で他の分野にあまり関心がないようだった。クリーンむさしのを推進する会の畑はまだあるのか。市の土地の中で畑作業をして、クリーンむさしのを推進する会の人々が収穫物を持って帰ることに對して、疑問を持っていた。

⇒エコプラザ（仮称）では、環境の活動をしている人たちの横のつながりができるとよいと思う。

⇒畑は工場棟の屋上にあり、クリーンセンターの収穫祭では、畑の収穫物を地元で企業を目指している人に野菜を提供して調理してもらってイベントで販売をしてもらったり、市民に配布をしたりしている。その他、収穫体験の場としても活用している。

芝生広場でも今後はイベントができると思うので、色々活動が広がるのでは。そうすると、運営のための組織も必要では。市役所で全部行うのは難しいと思う。市民団体やボランティアが担うの

か。

エコプラザ（仮称）の運営もどうなるのか。有償ボランティアなのか、無償ボランティアなのか、民間なのか・・・。

⇒今は色々な運営スタイルがあり、現在エコプラザ（仮称）市民会議の中で検討している。

5 クリーンセンターがあるまちの未来

①ごみ処理の未来 脱焼却

サッカーワールドカップでも日本の観客がごみを片付けていることが注目されていたが、ごみを片付けるのは日本の文化だと思う。

脱焼却、次のクリーンセンターをつくらなくてもよいような時代にしていきたい。ごみをなくす方法、資源として使えるようにすればよい。使えれば燃やさなくてすむ。有機として分解して、土にして畑の堆肥にするという方法もあるが、どんどん細かくして元素として使用できるようになる時代がくると思う。日本の化学技術の進歩により、元素のニーズが出てくると思う。

ごみをきちんと仕分けられる人が必要。人の目、人の手がないと難しそう。日本人は色々な研究をして、様々な課題を解決してきている。最近では、車の自動運転が現実的になってきている。高齢者の免許返納だけではなく、それに代わる物として自動運転車を推進するという方針が国から発表されたようだ。ごみ処理の技術にも期待している。

火災の問題も心配している。最近では、電池が小さくなっている。どこかに混入してしまうと、高齢者はわからなくなってしまう。分別が難しく、故意でなくても有害ごみが不燃ごみ等に混入してしまうことがありうると思う。

この周辺地域は、市役所もあって、ごみ焼却場もあって、未来のまちの縮図のようなところだと思う。

クリーンセンター、新しいクリーンセンター、みんなが見に来てくれるような施設にしてほしいと思っていた。子どもが来て、ごみについて学ぶことのできる施設に。それが実現しつつあると思っている。

②クリーンセンターが生んだコミュニティ

けやきコミセンは住民の地域を問わず活動しているが、地域を限定して活動している団体からすると、クリーンセンターがきっかけで生まれた他地域との交流は貴重なものかもしれない。会議の後に飲み会などで親睦を深めることは大事なことだと思う。ここで生まれた関係がこれからも維持できるとよい。

③けやきコミセン

けやきコミセン 10 周年の時に、びーとでお祭りをやった。それ以来自分でやりたいと思ったこと、個人の夢を実現させてきた。残り時間で何ができるかが一番の課題。すぐにできそうなことを実行しようと思うと、けっこうすぐにできる。若い人が今度けやきコミセンで結婚式をやることになった。自分もけやきコミセンで結婚式をやったが、みんなにもけやきコミセンで、自分の人生を過ごしてよかったと思ってもらいたい。

④地域の活動

市役所、体育館、色々な施設がそろっている。行政的には中心的なエリアと言えるかもしれない。この周辺には、やる気を持っている住民が多い。自ら発想して、実現していくような活発な人が多い。地域社協の活動も、けやきの活動もとても活発。

⑤話し合いを積み重ねる

クリーンセンターや障害者センターの建設を経て思うことは、話し合いを積み重ねる、話し合いの場があるということが重要だということ。話し合いを大切にし、外部から見学に来た人がコミセンも含めて、市役所、クリーンセンターを巡るような、夢のあるまち、元気でいきいきとしたまちになったらいいと思っている。

40年前、クリーンセンター建設計画に伴い、地元北町の住民は『武蔵野のゴミ問題を考える連絡会』を作り、一致団結して市と話し合いを行い、クリーンセンターの建設にこぎ着けました。

その後、当連絡会のメンバーが中心になって、市内唯一、コミセンの無かった当地にコミセンを作るべく、これまた一致団結して市に要望し、現在のけやきコミセンの建設に至りました。

今日のけやきコミセンがあるのは、40年前のクリーンセンター建設がきっかけであります。その意味で、クリーンセンター建設は、一般市民の行政に対する関わり方を啓蒙したエポック・メイキング（画期的）な出来事でした。

◎周辺まちづくりの課題

北町5丁目に建設中の障害者地域生活支援ステーションとの関係

クリーンセンター建設運動が一段落し、話し合いの場も無い不自由さを感じていたメンバーは、市のコミュニティ構想によって次々と建設されていたコミセン（コミュニティセンター）を、地域住民の拠点として我が町にも必用だとの思いが強くなりました。当時行政はこの地域にコミセンを作る計画はありませんでした。クリーンセンター建設に関わったメンバーは、活発な活動により団結力を培い、「成せばなる」ことを学びます。また、行政とのかかわりの中で、市民の能力を十分に発揮しました。この力がコミセン建設への原動力となり、7年間の長きにわたり行政と話し合いながら建設へと繋げたのです。平成元年12月16日けやきコミセンが誕生しました。

準備期間7年もの間は、長い道のりではありましたが、関わるメンバーにとってはコミュニティづくりに大いに役立ちました。武蔵野市のコミュニティ構想が目指していることの勉強や、地域に開かれた、ユニークなコミセンにしようとして話し合いが重ねられ、コミュニティの意識が高まっていった中でできたのが「けやきの精神」でした。

けやきハンドブックから

◆けやきの精神◆

日常の細やかな各自の努力、話し合いによる合意形成が、今の「けやき」をつくってきました。けやきらしさ、けやきの精神と呼ばれているものを、まとめてみると、次のようになります。言葉で表せばこのようになりますが、実際はニュアンスのある、絶えず変化し、充実するやわらかな心なのです。

○けやきの心は、「ユニークで開かれたもの」です。新しいものへのチャレンジ精神を大切に。

○みんなが自分の頭で考えてみる。自分の意見を持つ。思ったことを言うてみる。

○人の意見を聞く（他人の立場も考えてみる）

○良く話し合い、どこかで接点を見つけよう。

○規則は人を大切にするためのもの。きまりはなるべく数を少なく。

○人や物事に接するときは、いろんな角度からいろんな面から考える。時間がたてば変化することもあり得ることを忘れない。

○白か黒か決められないことも結構多い。

○立場上知った他人のプライバシーを守ろう。

○えらい人はつくらない。

○現状に安住しない。新しいことあたらしいものに対する好奇心を。

○良いと思ったことは実行してみる。だめだったら他の方法を。

○陰口はやめよう。

○まちづくりを進めるのは、ここに住んでいる私たち自身です。

あなたもけやきの一員。けやきの精神をもっと豊かに、充実させてください。

この「けやきの精神」は、運営委員の自立の精神と意欲的な活動を促すものであり、開館から30年もの間毎年、新人研修や運営委員研修で脈々と受け繋がれ、培われてきたもので

す。現在では、たくさん人も繋がり、活動も活発に行われていますが、30年という節目を迎えて、今後の目指す方向を考えている所です。多忙な運営委員が多い中で、工夫しながらも培ってきた力をどう生かしていくのか。高齢化を迎える中での役割、次の世代（子ども達）に残せるコミセンをどう考えていくのか。等今後取り組むべき課題はたくさんありますが、多方面の方からの意見に耳を傾け、集約し、未来に繋げていけるようなコミセンを目指していきたいものです。

寺島美美子

周辺まちづくりの課題に宜しければもう一つ追加して頂けませんか。

- ・防災の対する地域住民の意識の向上と、人と人の繋がり強化で、防災に強いまちづくり。

VI 都営武蔵野緑町二丁目第2アパート自治会

日 時 平成30年11月8日 午後1時～2時30分

出席者 千綿委員

聞き手 武蔵野市クリーンセンター関

1 団体の歴史・変遷

平成12年に入居したが、自治会は当初あまり活発ではなかったと記憶している。自治会費が当初は3000～4000円で結構高く、積極的に自治会の活動に参加しようとする住民が少なかったと思う。初代の会長は、元々武蔵野緑町団地に住んでいた人で、建替え後も高齢者が住み続けられる方策として併設された都営武蔵野緑町第2アパートに入居、高齢者の都営住宅への入居を自ら牽引した。入居時に仮の会長になってもらえないかという打診を受け、引き受けた後、本会長となった。初代会長は一生懸命会長を務められ、徐々に自治会の活動が活発になっていった。その後、何人か会長が代わっているが、自治会の活動は継続して活発である。

年に2回号棟集会和号棟委員会がある。号棟委員会は役員が出席する。号棟集会は、各号棟ごとに住民全員が出席する。会長として出席して、クリーンセンターのことを話している。ごみの分別のことも度々話題になる。市の広報を案内すると、みんなそれを見ながら分別しようという意思は持つ。ごみステーションを見ると、間違えてごみ出しをしている人もいる。気づけば、間違えているごみは戻すようにしている。

私たちにとってクリーンセンターが一番身近にあって、私たちの生活を支えてくれている施設と認識している。もし、クリーンセンターがなくなってしまって、ごみの収集が滞ったら大変なことになる。火災が起きていることはとても心配している。市民がごみの分別に注意していかなければと、自治会の会議でも度々話している。

2 旧クリーンセンター

旧クリーンセンター建設後に武蔵野市に引っ越してきた。クリーンセンターの存在を知ったのは、引っ越し後、市役所を訪れた時。水色と白のストライプの空にマッチしたきれいな煙突が目に留まっ

て、この建物はなんだろう、と思った。きれいな外観だったので、はじめからクリーンセンターについてネガティブな印象は持っていなかった。

元々福祉の会の委員をやっていた。高齢者部会と障害者部会に入っていた。福祉の会では、色々な地域の人との交流もあったし、イベントの企画・運営も数多く手がけていた。けやきコミセンの運営にも携わっている。障害者の母親部会の会長もやっていた時期があった。その後、都営武蔵野緑町第2アパートの自治会の役員になったことがきっかけで、クリーンセンター運営協議会委員になった。委員になったばかりのときに、ちょうど運営協議会20周年記念のイベントがあった。色々なパネラーが講演して、反対意見をみんなでわかちあいながら、朝方まで議論をして、出来上がったのが旧クリーンセンター。歴史の重みを感じたし、この歴史を大切にしていかななくては、と思った。

3 運営協議会

20周年記念のシンポジウムの時には色々な話を聞いて感動した。大変な想いをされた方々がいて、できたのがクリーンセンター。市民とのパートナーシップ、すごいと思った。代々の所長が周辺住民のことを大切にしてくれていることもありがたいと思っている。運営委員になったので、こういうことを知ることができた。20周年のお祝いには1日かけて色々な人が来て、本当にすごかった。

運協委員の会議の場に参加して、勉強になった。わからない言葉も多いが、わからないなりに可能な範囲で理解しながらやってきた。質問を多くなげかける委員もいるが、その度に市の職員がていねいに説明していると思う。クリーンセンターの職員は、身近な存在。市役所の中でも暖かい雰囲気がある部署だと思う。特に前の所長からは、色々なことを教えてもらった。運営協議会のバス研修とかでも色々教えてくれて、趣味のダンスの話も教えてくれて、とても身近に感じている。

運営協議会は、クリーンセンターを見守る、自分たちの地域にクリーンセンターのことを報告したり、情報を流したりといった役割を担っていければと思っている。しかし、今の住民は、クリーンセンターに対して無関心な人も多い。運営協議会委員も次の世代に引き継ぎたいと思っているが、なかなか手が見つからない状況があり、課題である。

4 新クリーンセンター

新クリーンセンターは建替えるか、建替えないかの検討段階から話し合いに参加している。すばらしい勉強をさせてもらった。視察先での勉強も有意義だった。広島や京都、愛知など実際に施設を見ながら勉強できたのがよかった。新クリーンセンターに何か得たものを残していきたいなという思いを持った。クリーンセンターの思い出はいっぱいある。クリーンセンターの職員も身近な存在。新クリーンセンター建設担当課長は明るくて楽しい人で、何でも話せる間柄、信頼できる職員だった。新クリーンセンター建設に必要不可欠な人だったのではと思う。

新クリーンセンター施設・周辺整備協議会では、塩澤委員や村井委員などから若い発想が色々出て、すばらしいなと思った。以前けやきコミセンでも塩澤委員に講演してもらったことがある。コミセンを大改革するような提案だった。けやきコミセンでは、現実的には難しいのかな、というような印象を持ったが、新しい斬新な発想力はすごいなと思っている。

その他の委員も含めて、10年近く話し合ってきたやつと昨年4月に工場棟が完成したが、まず、外観がすばらしいと思う。前を通りすぎる度に思う。団体見学をしているのもよく見かけてうれしく思っている。夜の照明もきれい。外壁にライトが組み込まれていて、すごい発想だと思った。壁面緑化も思っていたよりもよく成長していると思う。これから増えていくのかなと思うと楽しみ。

住民で見学した人からは、すごいね、と声をかけられることが多い。見学した人が友人に伝わり、そこからさらにその友人へ・・・とどんどん広がっていくとよいと思う。グッドデザイン賞受賞記念講演会に友人を連れて参加した。直接クリーンセンターのことを知ってもらって、その人たちからクリーンセンターのことがどんどん広がっていけばよいと思った。講演会に参加した友人は、感銘を受け、よい話を聞いてよかった、すばらしいクリーンセンターができてよかった、と言っていた。クリーンセンターの建設に携わった自分がクリーンセンターの良さを語っても、なかなか伝わりにくいことがあるので、より多くの住民に直接クリーンセンターに足を運んでもらえるとよいと思っている。声をかけて、見学に行ってくれた住民も数十名いる。クリーンセンターに行ったことのある住民は、みなよい施設だと言っている。クリーンセンターのイベントには、参加するよう自治会でも呼びかけている。

クリーンセンターへの思いが大切だと思う。20年間荏原がイベントなども含めて新クリーンセン

ターの運営を行うことになっている。クリーンセンターにいつ行っても、ていねいな対応をしてもらえている。荏原の運営にも期待している。

5 周辺まちづくりへの課題・想い

この周辺にはお茶を飲めるようなところがない。エコプラザ（仮称）にくつろいでお茶を飲めるような空間があれば、周辺住民や周辺を利用する市民にとって身近な施設になっていくと思う。コミセンもあるが、ここでしかできないことがあるとよいと思う。施設・周辺整備協議会では、部屋を貸して仕事ができるように、という案も出ていたが、市民が使えるような空間があるとよいと思う。足湯もよいと思う。クリーンセンターの廃熱を感じられる。みんなが行ってみたい、行ってみようと思えるような施設になるとよい。

フリーマーケットも人気がある。けやきコミセンでもやっているが、すぐに定員が埋まってしまう。けやきコミセン祭りではバザーをやっている。不用品を寄付してもらって、それを良心的な金額で販売する。不用品を募集すると、ものすごい量の物が集まってくる。売上げも毎回10数万になる。良い物が多いので、転売目的の業者が買いにくることもある。業者には来ないでもらいたいが、なかなか見分けもつきにくく、対応が難しい。業者対策として、値札つけの工夫はしている。売れ残りは資源回収の業者さんに引き取ってもらっている。最近、不用品に困っている人が増えている気がする。けやきのバザーに向けて不用品を整理している人もいるようだ。終活している人も多いのかもしれない。

けやきコミセンは、周辺に住んでいる住民以外にも、市外の住民も運営に関わることができる。市外に住んでいる成蹊大学の学生や教授なども参加していて、若い人からも色々と提案があったり、幅広い世代が運営に関わることで、活発な活動が続いているように感じる。

数年前は緑町パークタウンと一緒に夏祭りをやっていたが、世帯数と費用負担のバランス調整が難しく、一緒にやらないことになってしまった。都営武蔵野緑町第2アパートからは、子ども会が出店を出しているのみ。都営武蔵野緑町第2アパート自治会が費用補助をしている。第3アパートと一緒に夏祭りをという話もあったが、第3は第3で別にやっている。第2と第3の交流はあまりない。都営武蔵野緑町第3アパートは、クリーンセンターの運営協議会にも入っていないので、あまり関わり

がない。緑町パークタウンの方がつながりは強いが、世帯数が全然違うので、なかなかバランスが難しい。

今の若い人は夏祭りをやると親睦につながるのではないかということで、実施したいという意見もあるが、都営だけだと高齢化が進んでいて実施が難しい。パークタウンは入居者の入れ替えもあり、若い人も住んでいるが、都営は入居者が固定化されており、高齢化が進んでいる。夏祭りに代わるイベントが何かできればと考えている。自治会役員のなり手もあまりいないのが課題。今年度から自治会の役員に報酬を出すことになった。役員を喜んで引き受けてくれるようになり、ちょっとした発想の転換でみなさんの心、気持ちを変えることができるんだな、と感じた。自治会のあり方も変えていかなければならないと思っている。

この地域は木も多く、落ち葉が多い。落ち葉を集めて焼き芋をつくるイベントをやりたいと思っている。昔はやっていたが、灰が飛んだり、煙が出たりといったことから、出来なくなってしまった。夏祭りに代わるような、人が集まる、交流のきっかけになるようなイベントをやりたいと思っている。

子ども会ではハロウィンとクリスマス、七夕まつり、コンサートをやっている。自治会から経費を出しているのと、夏祭りの出店の売り上げを活用している。子ども会に参加していた子どもが大きくなって、子ども会の運営を手伝っていることも多い。子ども会から自治会へも活動をつないでいければよいと思っている。

地域の方とのつながり、交流としてイベントを企画していきたい。地域の高齢化が進んでいる。高齢者を対象とした茶話会を企画している。高齢になるとあまり外に出歩けないので、体操のプログラムやお茶を飲み交流ができるような企画をやりたいと思っている。茶話会の企画のきっかけは緑懇話会。緑懇話会には、自治会としては、団地が完成した平成12年から関わっている。私の関わりはここ4年くらいであるが、色々な情報交換が出来て、有意義に感じている。今できる事をやっておかなければと思っている。

6 クリーンセンターがあるまちの未来

クリーンセンターがあつていいと思う。市役所の前にあることが素晴らしいと思っている。こういう場所に存在するということは、きちんと整備されて、害のない施設ということを証明していると思

う。環境健康診断もあって、ここにつくられてしまった施設ではあるけれども、クリーンセンターは市民を守ってくれていると思う。臭いの問題などで市民から苦情があった時も、市は市民と向き合って説明し、対応し、市民を納得させてきた。クリーンセンターの運営の素晴らしいところだと思っている。衛生面、環境面、きちんと対応されているし、私たちを守ってくれている、守ってくれるための機関として運営協議会がある。クリーンセンターを見守っている。運営協議会の活動も素晴らしいと思っている。寄本先生もけやきコミセンに遊びに来てくれたことがあったが、クリーンセンターの取組みをととても評価してくれていた。このようなクリーンセンターの運営、市と運営協議会の関係性が今後も続いていけばよいと思う。

Ⅶ クリーンむさしのを推進する会

日 時 平成 31 年 1 月 24 日 午前 11 時～12 時 30 分

出席者 新垣俊彦委員

聞き手 武蔵野市クリーンセンター関

1 旧クリーンセンター建設と団体の発足・変遷

武蔵野市で発生するごみは、三鷹市・武蔵野市で運営していたごみ処理場から調布市に締め出されてしまった。「武蔵野市内にごみ処理施設を検討する」という仮の回答を出して一旦は収束するが、次に市内で、場所も含めてどうするのが大きな課題となった。

本会議場で何度も徹夜で議論をしてきた。当時の広報を見るとわかるが、記録を漏らさずにとっけていて、手も加えていなかった。武蔵野市の行政は、市民に対して民主的に対応するという点については、手厚く、辛抱強くやっていたと思う。

ごみ処理施設の建設については、総論賛成、各論反対となる。最初 58 団体くらいが集まって議論に参加していた。敷地が決まった段階では 54 団体だったと記憶している。各団体からの代表者と議員も出て、徹夜での交渉を何回したか。吉祥寺の駅前をプラカードを持ってパレードもした。みんながまとまった意見を持っていたわけではなかったが、「自区内処理はやむを得ない」との見解で、議論を進めていこうとはなっていた。市民から 5～6 か所敷地の候補が出された。1つ1つ真面目に検証して、具体的にどこがダメだということを示して、1つずつ候補をなくしていった。結果として、この周辺しかない、となる。記録が残っているものもあるし、記録が残っていない事実もあるのだろうと思う。

行政から解決金（2000 万円の迷惑料）を支払うとなった時、緑町三丁目町会以外は断った。緑町三丁目町会も最終的には断ったが、緑町三丁目町会とその他の地域では、市民の気持ちのズレは今も続いているようにも思う。

行政側が内部でどんな議論をしていたかは知らないが、手品のような話もいくつかある。この近辺で 2～3 候補地を挙げて、検討した。当然ながら、市民はみなできるだけ自分たちのところからは遠いところへ、となる。最終的には、やむを得ずのもうということになり、それにあたって市民

側からいくつかの提起があった。連絡協議会（運営協議会）を設置し、連絡協議会に全て諮るといふことや、健康被害について健康診断を行うことなど、色々な条件が出された。体育協会とどのようなやりとりがあったのかはよくわからないが、運動施設をどうするかは行ったり来たりがあった。

周辺の危機感と、我々外部の危機感は全然違う。周辺の人たちが、「外部の人たちは冷たい」、とそういう感情を持つのは当然のことだと思う。

クリーンむさしのを推進する会の会員は、都営武蔵野緑町アパート居住者が多く、緑町パークタウン居住者は少ない。都営武蔵野緑町アパートと緑町パークタウンでは、庭の扱いも違うようだ。緑町パークタウンは勝手にいじれないが、都営はある程度認められているらしい。都営武蔵野緑町アパートと緑町パークタウンは、色々な面で見解が異なることもあるようだが、クリーンセンターに対しては一枚岩。でも両方で協議をしているかという、そうでもないように感じる。

クリーンむさしのを推進する会は、旧クリーンセンター建設時に集まった 54 団体で、せっかくここまでやってきて、こんな風に市民がまとまるのは稀有なことだから、組織として残さないかということで、ごみ減量のための市民の協議会をつくることになった。これが団体のスタート。事務局、運営費は行政が持つことになった。定期総会の議案書から何から全部、市の担当職員 1 名が行っていた。

年月が流れ、徐々に予算も厳しくなり、担当職員も嘱託職員になった。嘱託職員がいる間は市の予算で運営されていた。当時は運営費として年間 500 万円出されており、予算の使い道がないこともあった。担当者から、市から事業費をもらいごみ減量の事業を行うことを提案されたこともあった。敷地内に小屋を建てて、クリーンむさしのを推進する会の居場所づくりも行っていた。そこで、クリーンむさしのを推進する会のニュースを作ったりもしていた。当時は、ごみ総合対策課の意向に従って活動をしていた。ごみ総合対策課の職員の状況も変わってきており、我々が職員に色々と教えて、他市の取組みも紹介して、勉強してもらって、有能な職員になった、と思うと他の部署に引っ張られてしまうというのを繰り返している。

ごみの有料化を打ち出した時には、クリーンむさしのを推進する会が手伝う、と市長に言ったら、市長に驚かれた。反対されると思ったのに、どういうことだ、と。有料化以後は市民努力になるけれども、有料化すれば、確実にごみは減ると考えていた。クリーンむさしのを推進する会のメンバー

が事前に地域で説明し、各地域で議論をして、地ならしをしてから、市長が地域を回るというスタイルで有料化の事業を推進した。

この頃私は、都内で仕事をしていた。その後、勧誘されて、クリーンむさしのを推進する会に入った。自治労とか色々なつながりは持っていたし、断片的には色々知っていた。

旧クリーンセンターの時にも、敷地内で生ごみ堆肥づくり、野菜作りを始めていた。運営協議会でも諮って、了解を得てスタートした。今後は、「屋上とエコプラザ（仮称）を一体のものとして捉える」ということをもう少し強調していければと考えている。

2 新クリーンセンター

新クリーンセンターの施設・周辺整備協議会は、私は第二期から参加している。私は、昔のことも色々知っているのので、みなさんの意見はよくわかる。

やむを得ずここに建設を決めた一番の前提は、「次はここではない」、ということ。平成 22 年の新クリーンセンターの最初の委員会でも、旧クリーンセンター建設時と全く同じ手法で、候補地を挙げて、条件を整理して、ダメな理由を挙げていって、1 か所ずつ候補から消し、ここだけが残った。やらなくても結果はわかっていたような気もするが、自分たちを納得させる意味合いもあったと思う。

健康診断について、無駄だからやめろという意見が議員からも出ている。クリーンセンターを別のところへ、と言っている議員もいるようだ。過去の経緯を詳しくわかっていない。議論すると浅い。

汚いものは全部外に出してしまうのではなく、せっかくここにあるのだから、ここを十分使いきって、ここを中心に環境について発信する場所になった方がよいということで、市も色々工夫していると思う。ごみピットバーもその一環と思う。武蔵野以外のごみ処理施設は山奥に立地している。昨日、日野市からごみピットバーに参加した人の話を聞いたが、目からうろこであった。ごみを見ながらお酒を飲む、そこに来ているお客さんは 20 歳代～40 歳代中心で、武蔵野市外からの来場も多く、かなり遠方からも来ている人もいる。ごみ焼却場の次にあるべき姿と武蔵野市以外の人には思っている。武蔵野市民は 2 割の人にも思っていないように感じる。

少し発信する中身を変えるなどしていかないと、自立するときに失敗するリスクもある。おもしろいけど、難しい事業。

管理棟が出来て、キッチンが出来れば、また新たな考えが出てくる。保健所や消防署の規制も緩和されてくる。今後、様々な取組みについて、荏原にやらせるのか、市主導で行うのかも課題だと思う。

エコプラザ（仮称）が再来年オープンする。エコプラザ（仮称）は土日開館。工場棟も土日開館となると聞いたが、市民対応班のスタッフもなかなか定着しない中、不安がある。エコプラザ（仮称）に合わせて、工場棟も火曜日休館となると、畑の作業をどうするか、調整が必要となる。

イベントに合わせて、屋上菜園のニーズがどうなっているのか、計画を示してもらわないと、屋上菜園計画が立てにくい。土日に作業日を設定すると協力員のメンバーも変わるだろう。生ごみを持ってきてくれる協力員が、生ごみを持ってきて、その後畑の作業を少し手伝って、野菜を持って帰ることができたらいいと思う。でも、今の生ごみを受け付ける時間帯が限定的すぎて、専業主婦でないと難しい。検討すべきと思っている。

協議会には、私と花俣委員だけが外部から参加していて、それ以外は、周辺地域から選出された委員が参加している。話を聞いていると、こんな地域エゴもあるんだな、と感じることはある。でも、それはやむをえないとも思う。私と花俣委員が、こんなところかな、と思うところが武蔵野市民の平均的な感覚では、と思っている。

3 周辺まちづくりへの課題・想い

まちづくりについて、どこまでお金が出るか。今の議論が絵のままなのか、餅となるのか。北エリアは予算がついているからいいが、周辺まちづくりのエリアはどうなるのか。

一番気になるのは、成蹊学園（扶桑通り沿い）の万年塀。地域に貢献できるような方法がないだろうか、と思う。周辺まちづくりについては、成蹊学園はエリアに取り込んだ方がよいかもしいれない。電柱がまだ立っているので、いずれ無電柱化の話もあるだろう。夢は広がるが、どこまで実現できるのかな、と思っている。

緊急時のクリーンセンターの扱いについて、野球場ががれき置場となるが、そこに至る道路が通行できる状態にあるのかが不安である。まちなかにあるクリーンセンターのデメリットでもある。山奥にあれば、こういう点では都合がよい。がれき置場もあり、緊急車両の通行路も確保しやすい。防災トイレも課題と感じている。武蔵野市内の公園は180か所程度。そのうちトイレがある公園は13か所ほど。他区市から来た人が、武蔵野市にはトイレがないという。コンビニのトイレも準公営みたいにして、災害時に貸し出すような運用ができないか。各公園にこれから整備するのは難しい。

ミカレットはごみ総合対策課所管だが、ごみ総合対策課の職員はなぜ担当しているのか歴史的経緯を把握しているのか。し尿処理を統括していたのが、ごみ総合対策課だったからだ。武蔵野市内は、現在1か所だけ汲み取りがあり、それ以外は工事現場などの仮設トイレ。湖南衛生組合には、多い時は4人くらい職員を派遣していた。いつの間にか武蔵村山市が公園に指定してしまっ、融通できなくなってしまった。

4 まちの未来

工場棟の屋上菜園でやっていることを市民のみなさんに見てもらって、有機でおいしい野菜、生ごみはなるべく焼却しないで、循環させることを見せる。そして、それを各地域でもやってほしい。ダンボールコンポストを配布しているが、マンション住まいの人は堆肥化しても使い道に困ることもある。ごみの分散処理という意味では、西久保なら西久保といった地域単位でこのような取り組みができる場所を設けたり、市民農園にそういう拠点を設けたりができればよいと思う。今は市民農園では、生ごみ堆肥の使用が制限されている。昨年の工場棟の屋上菜園に生ごみを埋める実験は成功した。今年もやってみて成功すれば、このデータを持って、生活経済課に協議に行く予定である。市民農園で生ごみ堆肥を使った有機野菜づくりができれば、取り組みの輪が広がると思う。こういうデータを含めて、エコプラザ（仮称）で公開して、活かしていければよい。工場棟、管理棟、エコプラザ（仮称）それぞれの建物ごとにつながっていけばよいと思う。

生ごみ提供は、30軒くらいの協力者がいれば、屋上菜園の半分くらいは賄える。4～5年続ければ、それなりの成果が出てくると思う。エコプラザ（仮称）でコミュニティカフェができる

が、シーズンごとに屋上産野菜を提供して、そこで楽しんでもらえるとよい。コミュニティカフェで野菜を食したことをきっかけに、屋上菜園の取組みに参加、という広がりもありうると思う。クリーンセンターやエコプラザ（仮称）で、何が発信できるかを考えると、アップサイクルが挙げられる。リサイクルは死語にしてほしい。一般市民はリサイクルされていればよいと勘違いしている。リユースがあつてのリサイクルなのに、すぐにリサイクルとなってしまう。

エコプラザ（仮称）には、シルバー人材センターの家具のリペアは持込まないことになった。アップサイクル、材料として価値観を出していくことには期待したいが、単なるリサイクルはやめてほしい。材料があつて、ものづくりを楽しむことのできる工房があるというのは良いと思う。ストックヤードがないから、なかなかできないケースが多い。

事務局

武蔵野市環境部クリーンセンター

電 話 0422-54-1221

Eメール CNT-CLEAN@city.musashino.lg.jp

